

躍動

TGスポーツOB連合会報
第 2 号
平成22年10月1日発行
企画広報委員会編集
(躍動・本間良一会長書)



第 2 号 発行 によ せて

TGスポーツOB連合会 会長 本 間 良 一
(昭和33年 文経卒)

先ずもって、今年4月我々の仲間入りされた新会員の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

さて、我々TGスポーツOB連合会はかつて東北学院大学体育会に所属していた同窓生によって昭和47年に設立され、現在46団体約15,000名の会員がおります。

そして「東北学院スポーツの振興と発展のため物心両面の援助を図るとともに会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与する」ことを目的に活動をしています。

ご承知のことと存じますが、昭和30年代の東北学院大学体育会は準硬式野球部が全国大会で優勝。サッカー部が全国大学選手権で準優勝する等東北の雄として多くの部が全国大会で活躍しました。

しかしながら「最近、東北学院のニュースが非常に少なく特にスポーツに関しては東北福祉大学や仙台大学のニュースが多いのではないか」との声も聞かれますが、我々会員の中にはプロ野球の埼玉西武ライオンズ 岸孝之投手の活躍、昨年第57回全日本剣道選手権で第3位になった高坂雄介選手の活躍、更には剣道部OBで東北学院大学剣道の総監督である曾根孝悦氏が此度難関である八段に見事昇段する等の明るいニュースが沢山あります。

そんな中我々TGスポーツOB連合会では会員や現役学生の活動状況を定期的に発信し情報を共有し皆様の今後の活動に少しでも役立てて欲しいとの思いからかねてより懸案事項であった会報「躍動」を昨年発行いたしました。

お蔭様で第1号は非常に好評で広く会員の皆様にご活用いただいておりますので今年も第2号を発行することになりました。

我々TGスポーツOB連合会としては今後共、工夫、改良を重ね内容の充実を図りながら毎年継続して発行して行きたいと思っておりますので皆様からの積極的なご意見、アドバイス、ご協力をお願い申し上げ第2号発行のご挨拶とさせていただきます。

東北学院大学の体育会の現状を見て

TGスポーツOB連合会 副会長 仲 嶋 一 雄

(昭和41年 文経卒)

毎年2月の総会の際に行なわれるスポーツ界で全国的な活躍をした、個人・団体を表彰するスポーツ勲功章の授与式に参加して、年々対象者が少なくなっていると感じています。

特に現役の学生は著しく減ってきており、このままでは表彰される部や個人が無くなってしまわないかと危惧しております。

最近では、全国的に活躍する部が少なくなって来ています。

東北最大の私立大学の雄と言われながら、スポーツでは東北の代表にもなれず、全日本学生選手権に出場しても上位に勝ち上がれずに低迷しております。

昭和の30年代・40年代は全国で優勝したり、上位に食い込んだりして、学院大の各部が刺激し合いながら、高い目標を掲げて与えられた環境でトレーニングに励みました。

その結果、東北ではナンバーワンになるのは当然です。インカレでは打倒関東・関西を旗印に有名校と互角に戦い、如何にして打ち破るかを意識して試行錯誤しながら練習を繰り返したものです。

グラウンドや体育館も各部が知恵を出し合い、譲り合いながら有効に使って切磋琢磨しました。

練習終わった部は次に使う部の為に、掃除をして気持ちよく使える状態にしておくのが暗黙のルールです。互いの部は守り合いました。

土足厳禁も当然です、良い意味での情操教育になっていました。

指導者もいない部がたくさんありました。名前だけの監督・コーチの部もありました。

それでも当時の現役の一途な努力が東北では勿論各青山・北海の定期戦でも負けない部がどんどん出てきました。

オリンピック選手・世界選手権日本代表・Jリーガー・プロ野球・プロ自転車選手・などのそれぞれ活躍プレーヤーも出てきました。

今では東北の中でも学院大の体育会各部は勝てなくなって来ています。

他の大学がスポーツに力を入れ特色を出しています。少子化対策の1つとして学生を集める広告灯になっています。

野球・柔道・弓道・剣道・陸上・サッカー・ハンドボール等昭和時代には負けなかった競技も今は東北で優勝するのが難しくなって来ております。

指導者不在や環境の問題等幾つかのマイナス面は確かにあります。無い物ねだりしても始まりません。今与えられた環境で強い学院を創る自覚と気持ちが必要です。また創意工夫も必要です。学生も現状に甘えることなく頭脳を使って勉強とスポーツの両立を図っていく努力が真剣にしているのか。はなはだ疑問です。

大学の中には良い人材の教育者が多数おります。スポーツマンとしての心構え等をしっかり学生に指導して頂きたいと思います。モラルの向上やお互いの情報交換等交流の場を設けて教育する責任が大学にはあります。

素晴らしいスポーツマンシップを身に着けている学生を育成して行くべきです。これが地元の企業から歓迎されている要因です。

なぜ社会ではスポーツマンが採用されて来たか。一般の学生よりしっかり挨拶が出来て、言葉使いがよく、協調性もあり、我慢強く、責任感があり即戦力として期待度が高いからです。

先輩たちが企業戦士として、素晴らしい実績を残してきた証しでもあります。大学もスポーツの良さを認め積極的に運動部の強化に教育の取り組んで行く必要があります。全国で勝てる運動部を数多く出て来るべきです。それには大学・OB・学生の協力が不可欠では無いでしょうか。

東北学院のTGスポーツOB連合会も初心を忘れず、昭和46年時代の母校を守った志をいつまでも持って、各部の強化と発展に遠慮なく貢献していただきたいと思います。

T Gスポーツへの期待

T GスポーツOB連合会 副会長 森 俊 博
(昭和48年 経商卒)

各部OB会の皆様方におかれましては、日々ご活躍の事とお喜び申し上げます。

昨年発刊いたしました東北学院大学スポーツOB連合会「躍動」の第二刊です。

学校法人東北学院は今年124周年を迎え、125周年の歩みを始めました。

私は、真に偉大だったOBの人たちのことをいつも考えます……。東北学院大学の名の下に命をかけて闘った人たちのことを。

青山学院大学との定期戦・北海学園大学との定期戦・東北大学総合体育大会・東日本大学大会・全日本選手権大会など、心の底に熱情の炎を燃やして闘い、そのあとに彼らは名誉を示す生き生きとした風を残しました。

染色の重要無形文化財保持者の志村ふくみさんが「一色一生」の中で伝統についてこのように言っています。

日本の古典を基礎にやったがこれはみんな新しいものだ。

伝統というものは生命の継承であって古いものの繰り返しではない。

それは伝統ではなく因習である。

人間は父にも似ているが母にも似ている。

しかし、父でもなく母でもない、新しい生命である。

新しい生命はその時代に成長してゆく力をもっている。

伝統は日々新しい闘いを続けていて、日々成長するものである。

伝統とは蹴破るものだ。

今、社会は大きな変化の中にあり、認識しなければならないことは、「抗しがたい時代の流れ」です。東北学院大学もこのことに気づき、変化への舵を切り、高い理想の下に進んで行こうとしています。今こそ、伝統を蹴破り学校法人東北学院大学と東北学院大学スポーツOB連合会が共に力を合わせ、理想に向かって進む時ではないでしょうか。

そして、今後益々東北学院大学スポーツOB連合会の役割が問われてくるものと思っています。OBの皆様頑張って行きましょう。

会報によせて

TGスポーツOB連合会 副会長 栗野 眞
(昭和52年 経経卒)

今般、おかげ様をもちまして会報「躍動」の第2号を刊行する運びとなりました。

皆様ご承知のとおり、当連合会は当初TG春秋会として発足し平成6年より現在の名称に変更されております。

その間、私たちは会員相互の融和と親睦をはかるとともに、母校の発展に寄与することは勿論のこと、当会員及び現役学生のスポーツに於ける顕著な成績或いは功績を残した方々に対し、勲功を以って顕彰してまいりました。

また、体育会監督会との連携のなかで、体育会HPの立ち上げ或いは競技力強化の提言等、OB会として情報発信の一翼も担っております。幸いにも各部現場を預かる監督さんへの理解も深く、これからもより成熟した関係を構築して参りたいと考えております。

今後とも、当連合会に対しましては、これまでの諸活動等含め新たな情報発信基地としての「躍動」にご期待くださいます様、最後になりましたが会員各位、並びに関係各位の皆様のご活躍を祈念いたしまして、刊行のご挨拶とさせていただきます。



思いつくままに

TGスポーツOB連合会 理事長 高橋 富士男
(昭年45年 法法卒)

早いもので昨年の創刊から一年が経った。本間会長の直書による「躍動」も今年の残猛暑を乗り越えて第2号の発行となった。

創刊号の発刊にあたり、何のために発行するのか、との声も聞かれ、先が思いやられたが多くのOB会からご協力をいただき47ページの冊子として発行することができた。

本会の加盟団体は46団体である。中にはOB会として活動していない部もあるようであるが、それにしてもその会員数は物故者を含めてではあるが約1万5千名を数える。

この数は相当なエネルギーを含んだ数字であり、TGスポーツの再生にパワーを発揮できるような存在でなければならないと思っている。

この会報を通じて、いつもは関心のなかったヨソの部の活動状況を垣間見たり、またOBや現役選手の活躍ぶりを見たりして少しでも興味を持ってくれたらありがたいと思う次第である。

さて、会報発行の次の事業としてTGスポーツOB連合会主催のゴルフ大会を企画した。企画広報委員会

とゴルフ部OBで数回の打合せをし、「TG・チーム対抗ゴルフ大会」との名称で、七夕の8月8日（日）、杜の都ゴルフ倶楽部において開催した。（成績等については後のページを参照願いたい。）

さすが伝統の体育会だけにそれほどしつこくない声かけにもかかわらず100名を超す参加者となった。母校からも星宮大学長を先頭に、また東北学院仙台同窓会からも各支部長や幹事長に参加をいただき予想以上の盛り上がりとなった。

不肖、私も周囲からの圧力に屈して10数年ぶりにクラブを握るハメとなった。炎天下のもとでズボンまで汗で濡らして放心状態でただクラブを振り回すだけであったが、そんな中でパープレーに近いスコアで上がってくるお歴々にどんな神経をしているのかとつい思ってしまった。

今回の開催にあたっては、ゴルフ部の大友監督や、杜の都ゴルフ倶楽部の橋本総支配人にずいぶんとお世話になった。来年もよろしくお願ひしたい、と今からの凶々しいお願ひである。

この大会はクラブ対抗の団体戦として継続していくことになるが、来年はもっと参加者が増えるのではと期待をしているところである。願わくば女性にもっともっと参加していただければありがたい。また、会員ご家族の方々にも参戦をお願ひできれば幸いである。

いま、企画広報委員会や常任理事会で話題になっているのはTGスポーツのキャラクターについてである。TGスポーツOB連合会としての独自のキャラクターはある程度簡単に作ることは可能ではあるが、できれば大学当局が先頭に立って作成してもらいたいとの思いである。

常任理事会や理事会でも明治大とか関西学院大、同志社あたりの各キャラクターを資料として提示、紹介しているが、いずれも大学主導して進められていることである。お時間のある方は明治大学のHPをご覧ください。明治と森の賢者、フクロウをかけて「めいじろう」と命名し、主な競技部をクリックするとそれぞれの部のユニフォーム姿に替わるように作られている。選手自身も励みになるだろうし、親御さんも息子、娘の応援に一段と力が入るであろう。また高校生にとっても大学選びに大きな関心事である。実現に向けていいアイデア、ご意見がありましたら是非お聞かせ願ひたい。

現在の本間体制になってから、会報の発行やゴルフ大会など新たな試みを発信してきた。これからも体育会学生を集めてのスポーツパネルディスカッションやトレーニング法の実技講習会、そして栄養面の講習会も実現に向けて常任理事会、理事会で検討してみたい。

あれもこれもと一気にはできないが、各競技の各フィールドでTGを背負って頑張っている学生諸君の一番手の応援団として、大学当局と連携しながら勝利に貢献できるような体制を作っていくことがTGスポーツOB連合会の存在価値なのだと思う。



一粒の種に学ぶ ― 恩師の愛に感謝 ―

合気道部監督 高橋 正博

(昭和40年 文経卒)

本学合気道部は来年で、丁度、創部50年の大きな節目を迎えます。現役・OBともども、「50周年記念演武会」の準備に入りました。

この機にあたり、あらためて発足当時の苦難の足跡をたどり、諸先輩が築いた伝統に触れる時、新たな力が次の一歩となるのです。

思えば、本学合気道部(同好会)のスタートは昭和36年6月。本学元職員木村和雄先生の情熱と菅原月秋先生の演武指導が始まりです。木村先生は、次代を担う青少年の人格形成に、武道の心「合気道」精神が極めて大事である事を、学内外に提唱。その熱意が叶い、念願の課外教育団体として、正式に昭和40年10月に部昇格。初代部長として木村和雄先生が就任。同時に本学創部の原点は、初代斉藤守弘師範、大宮司雅一郎師範、半沢義巳師範の人間味溢れる恩師の愛の演武指導そのものが源流なのです。本学合気道の心なのです。

斉藤師範は、学生諸君を前に合気道を学ぶ上で特に大事なことは、「修行の心構え」、「基本の練習」そして「心の修行」が大切です。その繰り返し「合わせ」の道となり克己を拓く道となるのです。何と含蓄ある言葉でしょうか。

先般、文部科学省から「学校教育の授業に武道の科目として合気道が正式に承認される。」と報道された。40数年まえ半沢先生は「学校教育現場に合気道」を、「合気道は愛の武道なり」と、次代を担う青少年のために、是非合気道のよさを広めたい。篤く語った日が、つい、昨日のようです。先生の強い信念と行動力がひとつの原動力となり、社会を動かしたのです。夢が叶ったのです。あらためて故半沢先生の素晴らしい合気道人生、教育道に心から感謝を申し上げる次第でございます。

本学合気道部はOB・現役併せて400名を数える大きな人宝となりました。特にこれからも本学の心「地の塩」、「世の光」を求めて、国内外で合気の道を目指し、世のため人のために貢献できる人材として、一層活躍されることでしょう。

あらためて本学に播かれた合気道の一粒の種の意義を、しっかり学び、次の50年の大きな夢に向かって、部長、松本洋之先生を先頭に、本学OB根本仁志師範を中心に監督・現役・OB等が丸となり、さらに一層邁進する覚悟でございます。今後とも、関係各位の温かいご指導・ご鞭撻の程よろしく願い申し上げます。



合気道 根本7段昇段 祝賀会

創部35周年を迎えて

アメリカンフットボール部OB/OG会副会長 高橋 公晴

(昭和56年 経経卒)

本年、創部35年を迎えて7月3日に記念試合並びに祝賀会を開催致しました。

記念試合は会場を『ユアテックスタジアム(仙台スタジアム)』をお借りし、北海学園大学ゴールデンベアーズとの定期戦を行いました。会場にはTGSスポーツOB連合会の本間良一会長はじめ多くの大学関係者お越し頂き、また応援団、チアリーディング部、放送会の皆様に応援してもらいに学生達の大きな力になったと思います。



記念試合の開会式

当日は北海学園大学のプレーヤーには気の毒で、北海道にはない梅雨まっただ中の湿度、気温共高いフィールドでのゲームでしたので、地の利生かし何とか勝利することが出来ました。しかし勝敗より両チーム合せ約80名のプレーヤーが天然芝の大きなスタジアムで精一杯プレーしている姿が何より輝いて見え、記念試合を開催して意義を感じました。

試合前にライン引き等会場準備を兼ね「Kayaks35」のタイトルで、OB／OGが当時のユニホーム等思い出の品を持ち寄り写真撮影会等、我々も大いに楽しむ事が出来ました。試合終了後は翌日「ベガルタ仙台」の試合が控えていた為、OB／OG全員でライン消し等会場整理を行い我クラブの結束が深まったように思えました。

35周年記念祝賀会は会場を仙台国際ホテルに移し、菊池弘部長先生、参議院議員愛知治朗連盟会長、本間良一会長のご挨拶を頂き、佐藤順顧問の発声で乾杯し総勢160名の参加者全員大いに盛り上がりました。

余興は両大学の1、2年生による一発芸対抗戦、こちらの戦い勝敗は付かず来年へ持ち越しとなりました。最後に、東北学院大学応援団のエールのもと、両大学の「学歌・校歌」斉唱し、エール交換し別れを惜しみつつレセプションは閉会となりました。

その後、年代別に別れ両校交流を深めにそれぞれ2次会、3次会へと流れ、お互いに秋のリーグ戦の健闘を誓い楽し時間を過ごすことが出来ました。

最後になりますが、記念試合のお手伝い頂いた東北アメリカンフットボール連盟の皆様、並びに日程調整等ご尽力頂いたユアテックスタジアムの関係者の皆様に感謝申し上げます。

そして何より創部より35年お力添え頂きましたTGスポーツOB連合会の先輩方には深く感謝申し上げます。今後共、ご指導ご鞭撻宜しく願い申し上げます。



両大学のアメフト選手

空手に先手なし 押忍の精神

空手道部OB会相談役 津田 公逸
(昭和39年 文経卒)

相手が出て来る迄耐えて、待つのであるがこれが私にとって大変な重荷である。

四年間学んで会得した事であるが、勝つ為の手段として崩しを覚えたところである。ここで、試合の度に待つことから解放されたのである。崩れた瞬間を見逃しては相手が立ち直ることもあるので、すかさず一撃を加えて一本取ることが、日頃より稽古の積み重ねで成されるのである。

勿論、受け攻撃が基本である。四年目の夏そんなことで全日本選手権で、多少活躍した事が思い出される。



昭和38年 東北大会 団体・個人優勝

我が空手道部には、優れた先輩諸兄が輩出されている。佐藤裕治先輩、佐藤正城先輩、仙台の祭りの多くを仕掛けられた島津紀男先輩、世界選手権を制した森君又毛色の変った宮城県サッカー協会会長小幡忠義先輩等、その他経済界で活躍している先輩、後輩諸氏が多く輩出されております。

恐らく皆が仕掛けて崩して相手の心の平穩を乱しながら、攻める姿勢で活路の糸口を見つけたのでしょう。空手道は、一瞬の勝負で勝つ為の技を磨いたはずである。

我が空手道部も、一時部員が4名になった時があって、廃部の憂き目にあった時がありました。丁度私がOB会長のときでした。

その時現役、OBが一丸となって次年度8名として翌年15名と回復したのであるが、空手を愛するOB一同がほっとしたのである。OB会の運営も時として経費の掛る場面があるのですがそんな時、イベントを考案して皆に協力して貰って解決して来たのである。

学生時代の最大の財産は、苦楽を共にした仲間である。私も、今日ある程度世間に同化出来たのは、先輩、同輩、後輩等仲間の応援あつての事だと、常々感謝しております。

空手道部が益々学生諸君に理解され、人生の鍛錬の場として発展していく事を望んでやまない。

私自身も老境に達してきて、社会の一遇を照らす者つまり些細なことにも気を付け、目に見えない部分を悟る事に気遣いながら、又、残りの人生を謳歌したいと思っております。

人生の指針

押忍

剣道修行

剣道部総監督 曾根孝悦
(昭和46年 経経卒)

この度、TGスポーツOB連合会報「躍動」に原稿を寄せるに当たり、この度の剣道八段合格を振り返りながら、剣道修行についてまとめてみます。

剣道修行の段階を示すものとして、全日本剣道連盟「称号・段位審査規則」により、「段位は、剣道の技術的力量（精神的要素を含む）」としております。

同規則の段位付与基準では、例えば「五段は、剣道の基本と応用に錬熟し、技倆秀なる者」、「八段は、剣道の奥義に通暁、成熟し、技倆円熟なる者」と規定しています。五段、八段に関わらず、それぞれの段位にはそれに相応する基準があり、審査では、審査員が基準に見合う力量を見極め、一定数の合意により合否が決められます。

八段の場合、剣道修行では最高の位であることから、審査では相当の厳しいものが求められます。今年の5月の審査結果をみても、受審者は1,530名、最終合格者が21名、合格率が1.4パーセントというものでありました。

自らの剣道修行を振り返ってみますと、昭和46年に本学を卒業し、仕事の傍ら稽古を続けてきました。この頃は、身体も絶好調、全日本選手権や都道府県対抗、国体等々、各種大会に出場したり、一日に朝晩の稽古をしたりと剣道三昧の日々でありました。昭和58年4月、34歳のときに剣道部監督に就任してからは、本学剣道部員と共に剣道に明け暮れたと言っても過言ではありません。

八段の受審資格は、七段受有後10年以上修行し、年齢46歳以上の者となっております。自分自身、年に二回の審査に挑戦すること28回、15年間もの長きに渡って審査に挑戦し続けることになるとは思いませんでした。10歳から剣道を始めて20年で七段まで進み、七段から八段合格まで一段上がるのに30年です。剣道人生、人それぞれであります、私にとりまして、



曾根八段昇段記念OB稽古会

八段合格は人生が変わるほどの大きな意味のあるものでありました。剣道が技術や体力だけではない、先人の言う「心」それも「無心」「無欲」の境地に触れることができた初めての機会となったことであります。私にとっての、心の剣道の始まりです。

私の剣道修行は62年目になりますが、正に「立ち止まり、振り返り、またも行く、一筋の道」であります。剣道の奥義に通暁、成熟するのも、技倆円熟になるのもこれからです。求めて修行を続けるばかりであります。

青山学院とのOB交流戦を終えて

サッカー部OB会事務局 佐藤 順
(昭和45年 経商卒)



去る、8月21日(土)・22日(日)の両日、我東北学院大学サッカー部伝統の対青山学院大学とのOB交流戦が関東地区で開催されました。

21日には、恒例となりました前日祭として第31回交流オープンゴルフコンペが宇都宮サンヒルズカントリークラブにおいて23名の参加をいただき開催され、ゲスト参加の本学アメリカンフットボール部OB会副会長の高橋公晴氏が優勝しました。

その他ゲストとして、仙合同窓会若林支部長の峰岸良造氏と仙合同窓会幹事長の菅原裕典氏、そしてスキー部副部長の嶋谷三氏、特別招待選手と

して本学サッカー部の良き理解者であります、ベガルタ仙台チームドクターで現在、白石市大泉記念病院院長であります松本純氏を交えての愉快的コンペとなりました。

終了後、青山学院OBの車に分乗し、目黒区自由ヶ丘の懇親会場、蕎麦処「山久」(本学44年度卒山田隆志氏経営・元三菱重工勤務)に向かい、田所勝太郎先生(元部長)他、大勢の青山学院OB諸兄の歓待を受け、懐かしい思い出に盃を交わし、翌日の試合の健闘を期待し早々とホテルにて就寝…!?

試合当日は、朝から灼熱の太陽が燦々と照りつける中、本学OB会長の松谷一夫からの挨拶があり、本学のキックオフで試合は開始されました。本学の選手15名の中には、現役に帯同した松原悟監督、コーチ陣で鈴木義夫氏・岩井宏穂氏・桜井卓氏、それに前日のゴルフに参加した松本純ドクターと私もメンバーとして参加し、フィールド内は40度近い暑さでお互い楽しむ以上に苦しみながらの白熱した交流試合となりました。試合結果は2対2の引き分け遠征勝ちとなり、久し振りに佐藤秀臣杯を奪回して参った次第であります。

2日間に亘り、旧懐を深め名残惜しみながら、次年度仙台での再会を約束し帰路に着きました。

今大会、運営に当たられた青山学院の中林隆夫氏はじめ、多くのOB諸兄と現役マネージャーに感謝の真を捧げます。

*“For the Unchanged Friendship and Burning
Spirits of Football Forever”*



自転車競技部創部40周年を迎えて

自転車競技部OB会会長 小野目 博 昭
(昭和50年 経商卒)

我が自転車競技部は、今年で創部40周年を迎えました。前身は、昭和43年に僅かな会員でスタートした愛好会でしたが、その後、体育会諸先輩方のご指導の下、昭和45年に正式に部として体育会への加入が認められました。

その当時、東北地方では「三笠宮杯東北一周自転車競走大会」というロードレースのビックイベントが開催されており、自転車競技が華やかな脚光を浴びる機会があったことなどから、東北地方の高校には全国レベルの自転車競技部が多く、その中でも特に宮城県は、県の大会で優勝するほうが、全国で優勝するよりも難しいと言われる程でした。

そんな中、期待されながら発足した東北学院大学自転車競技ですが、全国レベルの高校が多いだけに、かえって強豪がひしめく関東の大学に入学を希望する生徒が多く、有望な選手を集めるのは大変に難しい事でした。それでも、東北の大学で全国レベルの自転車競技部があればという思いの強い、県自転車競技連盟役員や高校自転車競技指導者の方々のご協力なども頂き、全国的に無名の選手でも自転車競技に対する情熱、やり通す意思の強い選手を送り込んでもらい、日本一と豪語できる練習量によって鍛え上げた結果、創部から数年のうちに、2年連続インカレ総合成績3位、個人成績でも数名の学生チャンピオンを輩出するなど、強豪校の一角を担うまでになりました。その後、後輩たちの更なる努力により、インカレ総合2位という、もう少しで日本一に手の届くところまでの成績を残しています。

近況は成績の低迷が続いていますが、関東の強豪大学には負けたくないという反骨精神を呼び戻し、強い東北学院大学がきっと帰ってくると信じています。

OB会としても、遠征時の機材運搬用トラックを購入、さらにトラックに併せた大型テントを作製し寄贈しており、また、インカレ応援ツアーの企画など、物心両面で学生を支えて行きたいと考えています。

最後になりましたが、TGスポーツOB連合会の今後益々の発展を祈念します。



柔道部創部90周年記念式典を終えて

南六会会長 豊 嶋 良 一
(昭和54年 経経卒)

柔道部のOB会は南六会と言います。かつての大学の住所、南六軒丁から拝借しOB会の名称としております。

さて、柔道部は大正8年(1919)に創部されました。本当はもっと以前から始められていたことは間違いないことではありますが、当時の専門部時代に学校当局から課外活動クラブとして正式に認められたのが大正8年であり、そこを起点として柔道部の歴史は始まっております。(学院時報30号に掲載)

以来、多くの先輩方の汗とともに歳月は流れ、昨年が創部90周年の記念すべき年となりました。このことについては、昨年の本会報の創刊号に載せていただきましたので若干重複しますが、記念式典では柔道部の発展にご尽力をいただいた多くの方々を表彰させていただき、そして祝賀会には総勢170名ほどの出席者により盛大に開催することができました。

多くの南六会員も出席してくれましたが、とりわけ70歳以上の大先輩方のほうが元気がいいように思いました。10年後の創部100周年の参加を楽しみにしている、と長老からの元気のいいスピーチに会場は大きな拍手でありました。

100周年まではアツと言う間であると思います。100周年に向けて全国区の柔道部作りに南六会として知恵を出しながら応援体制を整えてまいりたいと考えているところであります。

ただし、どの部も同じであろうかと思いますが、OB会からの支えも限度があることも事実です。やはり、高校生の親御さんが安心して東北学院大学に送りたくなるような体制を大学当局に考えてもらうことが必要であると考えます。たとえば大学によるスポーツ寮の完備です。柔道部では相当以前から遠方からの学生のために寮（合宿所）を民間の業者と契約をして現在に至っております。今は師範と監督の自宅近くのマンションに3室を借りて寮と称して生活をさせておりますが、食事の面を考えても大変な心配です。スポーツ寮があり、いろいろの部の学生が住まい、栄養面でもキチンとした管理が急務であると考えます。

スポーツ奨学金制度を設けている大学もあるようですし、また、体のケアも大事なことです。専門家を採用し、スポーツ学生の面倒をみてもらえるようなシステムも今や当然のことでありましょう。

少子化のこともあり、大学当局の慎重姿勢も解らないわけではありませんが、スポーツの果たす役割、効果の大きさは相当なものであるはずで、T Gスポーツの活躍が報道されることは全国にいる同窓生の誇りでもありますし、選手の家族にとっても、また出身高校の指導者、部員にとっても大きな喜び、刺激となるいいこと間違いなしです。そして、なにより現役学生にとっても、校歌にあるように「われらの学院」となるのではないのでしょうか。

柔道部はこれからもいい人材の育成を第一目標として歩んでまいりますが、各クラブ、各OB会団体が連携をして行動をしたら相当のパワーになると思います。これからのT GスポーツOB連合会の存在に大きな期待をしている所以でもあります。



OB会主催柔道部栄養会

会報の発行に寄せて

水泳部OB会 石田伸彦
(平成6年 教人卒)

T GスポーツOB連合会・会報第2号の発行、誠におめでとうございます。

我々体育会水泳部は昭和2年の創部以来80年以上の歴史の中で、数多くの選手・指導者を輩出して参りました。特に最近では、日本学生選手権（インカレ）や国民体育大会等での活躍する選手も出始めると同時に、本学を卒業して指導者となったOB達が育てた選手達が全国大会で優勝、あるいは入賞をする活躍も多数あり、水泳界の発展に貢献しております。

今現在では泉キャンパスに立派な50mプールがありますが、それ以前は当時工学部にあったプールを、更にそれ以前は県内の高校や大学、自衛隊のプールを借用して練習しておりました。また昨今は冬場でも変わらずに水中トレーニングをするのが当たり前の時代ですので、現在も現役学生は、年間通してのトレーニングのため泉区にあるセントラルフィットネスクラブ泉のプールを早朝に借用して練習しており、昔も今も「ジブシー」なトレーニング環境には変わりありません。

さて今年これまでの戦績を振り返りますと、6月下旬に行われた「東北地区大学体育大会（旧・東北地区大学総体）」では、男女それぞれが総合優勝で男子は3連覇、女子は2連覇を。7月上旬に行われた「北部学生選手権」においても、男女それぞれが総合優勝。こちらも同じく男子3連覇、女子2連覇となりました。

また社会奉仕活動の側面から、毎年6月に行われる「東北身体障害者水泳大会」の補助役員を行っており、今年はその20周年を記念して、障害者団体から特別表彰をいただきました。

今後も、オリンピックや世界水泳での日本選手の活躍で、水泳競技に注目が集まりつつある中で、本学水泳部も時代の波に乗れるよう、努力していきたいと思っております。そして「記録」だけにとらわれるのではなく、「体育会」としての豊かな人間形成にもつながっていかねばと思っております。

最後に東北学院大学T GスポーツOB連合会が、今後ますます発展していくことを望みます。

創部30年を振り返り

スキューバダイビング部OB会長 武田 幸雄
(昭和56年 経経卒)

我がスキューバダイビング部は34年前に、石巻市にある三陸ダイビングセンターの水泳部OB、徳増先輩を初代監督に迎え、現監督の嶋山先輩をはじめとする7名の先輩により創部されました。

当時は愛好会として発足し、柴田誠部長、佐藤順副部長のご指導をいただきながら新入生5名を迎え、会の活動がスタートしました。私はその新入生の一人として入会したのですが、かなづちであった私にとって海の中に潜るといふスポーツは考えられないことでした。その後、私が3年生になった時には、体育会の一員として認められ、部室を持つことができたのです。

学内での基礎体力づくり、学科講習、石巻近辺での海洋実習や三宅島での夏季合宿、そして秋に行われた東京での関東学生潜水競技会への参加と、初めてのことばかりで戸惑いの連続でした。

今、思い起こせばよい思い出の数々ですが、ただ一つ困ったことがありました。関東ではある程度認知さ

れたスキューバダイビングでしたが、東北ではその認知度が低く、毎年の新入部員、毎年の新入部員を確保することが非常に難しかったのです。創部から20年くらいは新入部員のいない年もあったりで全学年で10名ほどの部であったのです。それが10年ほど前よりダイビングの認知度も高まり、男女問わず新入部員も多くなってまいりました。

今年は14名の入部で全学年で57名にのぼる部員数となり活動をおこなっております。

大所帯ではありますが、黒須部長の指導のもと部員全員で協力し合い、事故のない部活動を目指してほしいと思います。

最後になりますが、今年一年間、黒須部長がヨーロッパ研修のため不在となりますが、部員一同助け合い、しっかりとした部活動をしてほしいと願っております。



創部30周年記念パーティー



TGスポーツOB連合会会報発行に寄せて

体育会軟式野球部監督 鈴木 勝博
(平成12年 法法卒)

我が軟式野球部は、まだまだ歴史も浅く小さな団体ではありますが、これまで諸先輩達が築き上げてきた実績はとても大きなものがあります。全日本選手権ではベスト4、東日本選手権では過去3度の優勝と、特に近年は2年連続決勝進出をするなど、東北の大学軟式野球界を代表して頑張っておりました。

同じ野球でも硬式野球や準硬式野球がありますが、軟式野球はヒットが少なく得点も少ない特徴の中で、いかに最小失点で数少ないチャンスで得点できるかを常に考え、伝統的に「学院野球」として華やかではありませんが、組織的にコツコツと全員の繋ぐ気持ちで勝ち進んで参りました。普段の練習環境としては、仙台市の球場を借りて週3、4回練習に励んでおり、専用グラウンドが無く、時には河川敷での練習ですが、恵まれた環境の他大学に負けずに日々工夫をしながら努力しております。

スポーツ推薦も年に一人程度で、特に秀でた選手はおりませんが、高校時代の管理された野球から選手個人が自ら考え行動して部をまとめていくというスタイルを代々受け継いでおります。OB・OGも各界で活

躍しておりOB会全体で約260名（平成22年4月現在）に達しております。年1回のOB会総会も年々参加人数が増え、盛大に行われております。

今後も、部の伝統でもある「絆」「繋がり」の気持ちを持って、現役・OB・OG一丸となって頑張っていきたいと思っております。

豊田忠夫さんを偲んで

ハンドボール部OB会長 仲嶋 一 雄
(昭和41年 文経卒)

東北学院大学ハンドボール部OB会の前会長豊田忠夫氏が平成21年7月16日肺炎で亡くなりました。ご冥福をお祈り致します。享年76歳です。すこし早すぎると思っています。

訃報を聞いたのは16日の夜です、豊田さんの元同僚の永井さんからの連絡で知らされ、本当に驚きました。

ご遺族の意向で身内だけの葬儀をしますので本当に親しく付き合った人だけに連絡しますと伝えられました。

このことを知らせたのは大学OB会の年配の方だけです。

菅井治夫さん、相沢彦さん、高橋長偉さん、千田文彦さんらに知らせて皆さんと一緒に葬儀に出ました。後日東北のハンドボール関係者から多数問い合わせがありました。しかしご遺族の意向を伝えて弔電だけを頂いて葬儀はご辞退とさせていただきます様に致しました。

さて、昭和30年代の東北のハンドボール関係者は学院大OB会の豊田と言ったら知らない人いません。それだけハンドボールを愛し強化と普及に心血を注ぎこんだ方です。

東北では負けなし、東北代表として国体ではベスト8と実績を残した指導者です。監督としても素晴らしい戦果を上げられました。仕事や家庭を犠牲にしながら数々の全国大会に参加して頂きました。東北では学院大は勝って当然です、負けたときは大変なお叱りを受けました。それだけにハンドボールへの情熱は大変なものです。並の人では理解できません。呆れるやら感心するやら羨ましくも思いました。

お酒も豪快に一升位を飲み干しよくハンドボールの話をしていました。わしは100まで生きるぞと、酔うと口癖のように言っていました。それが76歳で亡くなるなんて考えられません。数回入院先に会いに行ってもハンドボールの昔話です。近いうち病気を克服して退院するから心配するなよと言っていました。私たち後輩は豊田さんの思いを受け継いで強いハンドボールの宮城県を創って行きます。全国大会で勝てるチームを高校であれ一般であれ出て来るように豊田さんが蒔いたハンドボールの種に花を咲かせたいと思っております。

会長時代は学生達の就職の世話やOBの結婚式には快く出て頂き素晴らしいスピーチをして下さいました。

ハンドボール部OB関係で初のオリンピック選手の佐々木信男さんや世界学生の日本代表選手選ばれた千葉史信さん・弓場義一さん等の支援も熱心にして頂きました。

大変お世話になった方々は数多くおります。本当にありがとうございます。これからは天国からご家族と県のハンドボール関係者や学院の後輩達をお守り下さい。

先立って逝かれた中村雄志先生や新野さん等とハンドボール談義をして美味しいお酒を飲みなら、極楽浄土を楽しんで頂きたいと思っております。 ご教授に感謝致します。

合 掌

(ハンドボール部OB会報「錬磨」より)



対青山学院大学定期戦に参加して

フェンシング部監督 頼 藤 俊 夫
(昭和49年 経商卒)

本年の東北学院大学対青山学院大学定期戦がフェンシング競技が6月12日、青山学院大学の青山キャンパス体育館において開催されました。梅雨入り前の大変に蒸し暑い日、本学選手と共に会場入りをしました。

青山キャンパスは、一昨年に訪れたときと変わらず緑が美しく、木陰のベンチでは学生達の談笑する姿が見かけられました。

会場の地下体育館も入るとすっかり試合の準備はできており開始を待つばかり。迎え撃つ青山学院大学側の意気込みが並々ならぬものと感じ取ることができました。

試合は熱戦に次ぐ熱戦で1試合目のフルーレは逆転の末に本学が勝利しましたが、2試合目の得意とするエペにおいてまさかの敗北となり、優勝の行方は3試合目のサーブルの結果に委ねられることになりました。

サーブルは、これまで常に青山学院側に分がありました。一丸となつての戦いに見事我がほうが勝利し、昨年に続き優勝することができました。

試合後に恒例の懇親会が開催され、OBも多数出席し、選手達の互いの健闘を称えあいました。いつしか話は各自の現役時代の思い出となり、この定期戦の歴史と果たしてきた役割の大きさに改めて深く気付かされることになりました。

お互いに部員不足で定期戦の開催を休止することを考慮した時期もありました。しかし、交流を深めることが第一としてこれまで回を重ねてまいりました。

これからもこの定期戦を通して学生諸君が互に切磋琢磨し、各々の心と技術を高め、より一層の友情が深まるよう願っています。

来年の定期戦に向け、しっかりと強化を図り完全優勝を達成したいと思います。



定期戦を終えて

TGスポーツOB連合会会員の皆様へ

ボート部OB・OG会仙台艇友会会長 鈴木 和 雄
(昭和45年 経経卒)

ボート部の創部から現在までの活躍をシリーズの第二回として創部の頃を平成7年2月18日に行われた『東北学院大学体育会 ボート部30周年記念会報』に掲載されていますので後半をご紹介します。

創部の思い出と御礼 ～皆様の御厚情に感謝して～

ボート部監督・仙台艇友会会長 増 田 量 吉

学生に於いては、当時東北高校漕艇部監督幡紀典先生、東北大学漕艇部OB小笠原清高先生始め大勢の皆様のご指導を頂き、又、最初の艇(ナックル)の購入に当たっては玉木造船所社長に大変お世話になり、これらの方々のご恩に報いるため、一日も早く同好会が部になり全国大会に於いても勝てる強い部にする事だけを心に誓い頑張りました。初めて乗艇合宿は昭和40年春、松島の動物園(現在松島公園)の脇の空地にテントを張り行いましたが、夜中猛獣の唸り声が腹に響いて眠れず大変怖い思いをしました。夏には桂島の民宿に合宿し来るべき大学ナックル選手権を夢見ておりましたが、合宿が終わると遭難騒ぎもあったせいか練習に来る部員が2～3名だけになり試合には出られず。来年41年に賭けるしかなくなりました。私にとって4年になる年に部員の増強が成されなければ部の存続も危ぶまれることから県内高校をまわり、その甲斐があり塩釜高校より鈴木和雄、杉船敏彦、東北高校より伊東俊一、鈴木俊、石巻商業より成沢礼儀のボート

ヨット部ことはじめ

東北学院大学体育会ヨット部OB会会長 松澤泰通
(昭和42年 文経卒)

創刊号では「佐藤 出 前会長」が、当OB会の活動状況と会員諸氏の活躍及び現役部員数の減少問題を寄稿せられましたので、今回はヨット部誕生のエピソードを記します。

昭和26年、東北ヨット協会より通達があり、全日本学生選手権松島大会には地元2校の参加ができるので、東北大学1校だけでなく東北学院大学も参加してはどうか？また、翌27年は第7回宮城国体の年でもあり、部結成の大きなチャンスではないかとの話が体育会にあり、国体用の艇を使用し、ここにヨット部の原型(同好会)が出来上がったのであった。

27年4月、東北大学ヨット部の指導でA級ディンギー(艇種名)は、ど素人のテラー操作(操舵)で動きはじめた。第7回宮城国体には全員役員として奮闘努力、そして繰り広げられる大きなヨットレースを目の当たりにして、全員感動の渦に巻き込まれたことに違いない。

国体終了後、同好会の組織作りも順調に進み、同好会長「大森純雄教授(初代部長)」主将「瀬川 守」主務「小幡喜平治」に決定。艇獲得の為に小田学長、阿部学監への日参を全員一丸となって行い、学校側の寛大なご理解を得てA級ディンギー5艇、スナイプ級2艇購入、まさに努力の艇を自由に帆走(?)乗り回すことができたのである。

次の困難な階段は、部への昇格と会員の獲得であった。まず翌28年の会員の募集に始まり、さらに部への昇格は熱意と努力、誠意が実を結び、ここに東北学院大学体育会ヨット部の誕生を見たのである。

初年度目標は「ルールを覚えること」であった。この年、東北大学と第1回定期戦を結び、初試合に武者震いしながら戦いに挑んだまでは良かったが、レース中、学院大スターボード艇(権利艇)は東北大ポート艇(非権利艇)を避けて、よけて帆走するという笑うに笑えない話があった。つまりこの場合、ルール上では、学院大は東北大を避ける必要は無かったのである。

さらに、翌29年、関東学院大学と第1回定期戦を結び、伝統ある関東学院大学を破るという大金星を挙げる。

その後、この2つの定期戦と国体参加を目標に猛練習を重ね、ここに、ヨット部初の国体選手「鈴木晃正先輩(初代OB会長)」の誕生を見たのである。

以上、ヨット部誕生期の語り草を資料をもとに編集してみました。この諸先輩方の創部の情熱と行動は、今日のヨット部OB会降盛の基礎を築き、それはさらに現在まで絶える事無く引き継がれております。



昭和40年頃のA級ディンギー練習風景



昭和40年頃のヨットレース風景

T G ラガークラブ活動近況について

T G ラガークラブ事務局長 山 田 純
(平成6年 経商卒)

東北学院大学ラグビー部OB会「T G ラガークラブ」活動近況について、5月の「OB会主催新入生歓迎会」と6月の「関東支部会」についての行事報告をさせていただきます。

平成22年度東北学院大学ラグビー部は、新入部員として11名の元気な仲間を迎えました。T G ラガークラブは、この喜ばしい出来事を祝い、新入部員を歓迎すべく恒例の「OB会主催新入生歓迎会」を平成22年5月2日(日)に仙台ガーデンパレスにて開催いたしました。

当日は、歓迎会に先立ち東北学院大学ラグビー部主催の「新入生父母会」も開催され、その会に出席された新入生のご父母も歓迎会に出席していただくこともでき、現役部員・コーチングスタッフ・OB会事務局員が歓迎会会場にて、拍手で新入生とそこのご父母の入場を迎え入れた後、工藤哲男会長のお祝いの挨拶、志小田正一副会長の乾杯で会は和やかに始まりました。会場には、新入部員やそこのご父母、現役部員、コーチングスタッフ、OB会事務局総勢63名が一堂に会し、喜ばしい歓迎の宴が展開される中、新入生の紹介を現役部員が行いそれに応える形で新入生の自己紹介がなされるなど、平成22年度の現役新幹部及びコーチングスタッフの紹介も織り交ぜ、とても盛り上がりました。最後に、今年の新入部員が元気に活躍し東北学院大学ラグビー部が全国へ向け飛躍していくことを願い、今年から宮城県ラグビーフットボール協会理事長に就任した菊地祐一副会長の締め挨拶で、会は盛会のうちに終了しました。

6月には、青山学院大学ラグビー部との定期戦が関東地区にて開催されることを受け関東地区在住のOBへ、T G ラガークラブや現役活動の近況報告及び現役への支援依頼を兼ね、4年ぶりとなる「関東支部会」を平成22年6月5日(土)に東京赤坂「海皇」にて開催いたしました。

関東地区には現在50名を越える会員がおりますが、なかなか集まる機会が少ないということで、東北学院大学ラグビー部が、青山学院大学ラグビー部との定期戦で関東地区に遠征してくる年に会合をもち、懇親を深め、現役支援の輪を拡充していきたいということで今後、会を継続していくことの確認がなされました。

また、前関東支部長の南條恒雄氏のご逝去により、新役員として支部長に佐藤雄二氏、事務局長に平野重範氏が選出されました。



T G ラガークラブ 関東支部会

OB会設立50周年式と黒澤直次郎先生を偲ぶ会

陸上競技部OB会会長 鈴木 浩
(昭和37年 文経卒)

去る6月12日パレス平安にて平成22年OB会総会後、OB会員のみにて開催致しました。

OB会設立50周年と黒澤先生偲ぶ会を合わせて行うのは如何かと云う意見もありましたが、OB会設立については1960年、私が3年の時当時部長で監督だった黒澤先生の強い意を受けた今は亡きマネージャーの旧姓矢本彰君が東奔西走し、陸上競技部後援会と言う組織を作りました。このような黒澤先生の思いを勘案すれば、合わせて行った方が先生も喜んで下さるだろうとの思いで合わせて実施致しました。

この競技部後援会発会式は東一番丁のプラザ軒において、多数のご臨席を戴き、また大学プラスバンド部による名演奏などアトラクションもあり賑々しく発会致しました。

この後援会は学生が主体で学生が先輩のOBを訪問、カンパを戴き会の運営を致しましたが、1979年に名称を後援会からOB会と改称、名称変更と同時に会の運営を学生からOBに移管、事務局・会計など全ての

会務をOBが行うようにし現在に至っております。

運営費もカンパから会費制にし、年会費4,000円で年100名弱のOB諸兄から振込みを戴いております。

黒澤先生を偲ぶ会は先生のアットホーム的な写真を会場に飾り、会の始めに12年前にTV東京で放映されたビデオ映像をDVDに10分程度に抜粋編集し直し鑑賞。

この映像は平成10年TV東京が全国の豪邸訪問と云う番組で黒澤先生のお宅をタレントの「きたろう」が取材。

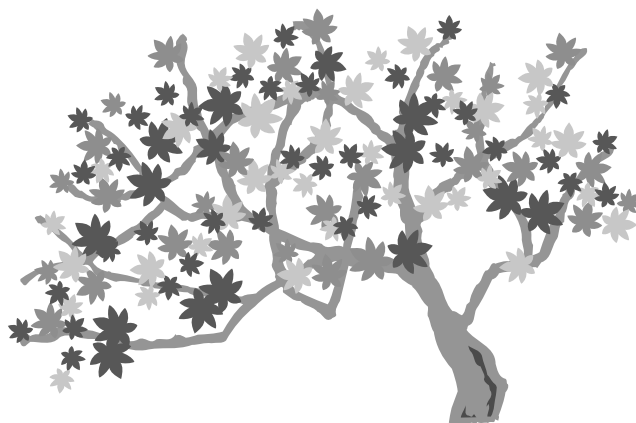
この取材申し込みの時、黒澤先生が40年前我々の練習風景の8ミリの画像をビデオに変換作業中。それを見た取材人は、それは何ですかと言う事になり、先生が説明をしたところ家だけの放映よりその画像を見ている当時の学生の様子も合わせて放映したい、と言うことになり、その画像を調べたところ1959年であることが判明。

当時の1～4年生の諸兄に声をかけ（15名出席）その8ミリを鑑賞しているところもTV東京で放映となったものです。

この8ミリの映像の中で黒澤先生が「俺の家に来るのは5月15日に来い、セメント袋を持ってきて筍を持って帰れ、というセリフがあります。

今回のサプライズとしてこの黒澤先生のセリフ通り、筍を黒澤竹林より採取（水煮瓶詰めにし）出席者全員にお土産と致しました。

最後になりますが黒澤先生の我ら競技部に対する思いが創部85年誌の黒澤先生の「私と東北学院陸上競技部、の末筆に「東京教育大学を卒業し東北学院に奉職、以来定年退職までの40余年、人生のほとんど全てが東北学院大学陸上競技部と共に今日に至りました」とあります。改めて黒澤先生の我らに対する思いを感じた偲ぶ会でした。



OB会の近況（昨年10月から現在まで）

合気道

- ・根本師範の七段昇段祝賀会（22年7月11日 ホテルモントレ仙台）

空手道部

- ・富岡杯ゴルフ大会（21年10月16日）
- ・平成21年度総会（21年10月16日 リッチフィールド仙台）
- ・会報発行（22年2月）
- ・ゴルフ大会
- ・平成22年度総会

剣道部

- ・総会
- ・OB稽古会
- ・学連OB剣道大会出場

硬式野球部

- ・OB会総会（22年1月23日 ホテルメトロポリタン仙台）
- ・OB会納涼パーティ（22年8月5日）
- ・OB会親睦ゴルフ大会（22年10月31日）

サッカー部

- ・OB会総会兼懇親会（22年3月27日 梟）
- ・第31回対青山学院親善ゴルフコンペ（8月 宇都宮市）
- ・第41回対青山学院OB戦（8月 相模原市）

山岳部（TG山岳会）

- ・定時総会（22年3月）
- ・例会登山（5月、7月、9月、11月）
- ・TGヒュッテのメンテナンス（6月、8月、10月）
- ・会報の発行
- ・現役部員の活動支援
- ・朝日連峰（平成21年9月）
- ・南蔵王・中央蔵王縦走（平成21年11月）
- ・南雁戸山（平成21年11月）



冬のTGヒュッテ



平成21年 TGヒュッテ「栄光祭」

自転車競技部

- ・OB会役員会（22年4月13日 大崎八幡宮社務所）
- ・自転車競技部への遠征用テント寄贈（4月23日）
- ・定期総会、三浦前副部長慰労会（4月24日 ホテルコムズ仙台）
- ・全日本学生選手権応援（OB会長）（7月4日 長野・かりがね自転車競技場）

柔道部

- ・柔道部創部90周年記念祝賀会（21年10月3日 仙台サンプラザ）
- ・柔道部納会（21年12月22日 ホテル白萩）
- ・南六会（OB会）役員会（22年5月11日 90周年記念館会議室）
- ・南六会総会&オールTG柔道交流会（5月22日）

ホテル白萩)

- ・南六会主催柔道部員栄養会 (8月11日 ひがしやま長町駅前店)
- ・南六会報・創部90周年特別記念号発行(10月1日)
- ・ゴルフ大会

スキー部

- ・OB会総会 (22年3月20日 伊達路)
- ・新入生歓迎会・父兄懇談会 (4月5日 ガーデンパレス)
- ・創部50周年記念パーティ (10月30日 仙台国際ホテル)

軟式野球部

- ・OB会総会 (21年11月)

ハンドボール部

- ・平成21年度納会 (21年12月 ホテル白萩)
- ・平成22年度新入生歓迎会 (22年5月2日 ホテル白萩)
- ・OB会報「練磨」発行

ボクシング部

- ・OB会総会 (10月に開催予定)

ボート部 (仙台艇友会)

- ・OB会総会 (22年2月13日 作並温泉・湯の原

ホテル)

ヨット部

- ・OB会幹事会 (3ヶ月に一回程度)
- ・OB会総会 (22年5月22日 法華クラブ)
- ・OBレース (7月4日 名取市関上)

ライフル射撃部

- ・OB・OG対現役戦 (21年12月6日 宮城県ライフル射撃場)



栗野 伏射フォーム

ラグビー部 (TGラガークラブ)

- ・新入生歓迎会 (22年5月2日 仙台ガーデンパレス)
- ・関東支部会 (6月5日 東京・赤坂「海皇」)
- ・ゴルフ大会 (9月5日 仙台ヒルズゴルフ倶楽部)

今年3月の卒業生進路

合気道部

公務員、金融関係、サービス業、情報関係、その他

空手道部

自衛隊、さくら情報システム

弓道部

アミューズメント会社、金融機関、ソフトウェア会

社、化粧品会社、地方銀行、臨時講師、飲食店

剣道部

各県警、公務員、一般企業

硬式野球部

仙台銀行、竹中工務店、東北ガス、バイタルネット、その他

サッカー部

富士通東北システムズ、みずほ証券、佐々木建窓、仙台ニコン、三晃空調、開隆堂出版、ベガルタ仙台育成部、仙台市消防局、アクティオ、リンナイ、大成建設、日本教育大学院大学、三菱電機ビルテクノサービス

山岳部

日本金融通信社

自転車競技部

日本競輪学校、日本郵政、フコク生命

柔道部

宮城県警（2名）、銭高組、盛岡少年刑務所、三陸運輸

準硬式野球部

能美防災、ツルハ、青森公立大学、北日本銀行、北海道味の素、みちのく銀行

水泳部

山形県警、ホテルメトロポリタン仙台、カワトク、NISSAN

軟式野球部

仙台銀行、J R 東日本、三井住友海上火災保険、青森県平内町役場、岩手県農協

ハンドボール部

J R 東日本、仙台銀行、仙台水産、トヨタカラー岩手

ボート部

日本通運

ヨット部

T V 番組制作会社

ラグビー部

東日本フード、富士ゼロックス岩手、福島トヨタ、スズキ自販、警視庁

OB・OGの活躍、近況

空手道部

- ・大友 茂榴（昭33年卒）
書道家（号、青陵）として日展特選、宮城県教育文化功労賞受賞等々
- ・小畑 忠義（昭37年卒）
社団法人宮城県サッカー協会会長、東北サッカー会長

剣道部

- ・曾根 孝悦（昭46年卒）
本年5月の昇段審査において八段に昇段
- ・高坂 雄介（平14年卒）
本年の全日本選手権大会出場決定（静岡県）、昨年は全日本選手権第3位）
- ・川木 一也（平11年卒）
昨年に引き続き全日本選手権出場（山形県）

- ・五十嵐裕子（昭60年卒）
全日本都道府県大会宮城県チーム監督
- ・佐藤 佳代（平22年卒）
全日本都道府県大会宮城県チーム代表選手

硬式野球部

- ・岸 孝之（平19年卒）
埼玉西武ライオンズ投手
- ・星 孝典（平17年卒）
読売ジャイアンツ捕手

自転車競技部

- ・大野 直志（平成元年卒）
日韓対抗学生自転車競技大会の女子監督
- ・全国で10数名が競輪選手として活躍中

ボクシング部

- ・阿部 修 (昭50年卒)
バイタルネット(株)取締役営業本部長
- ・茂木 昭良 (昭51年卒)
仙都魚類(株)常務取締役

ボート部

- ・OBチーム 河北レガッタ
ナックルフォア40歳以上の部 第2位

ライフル射撃部

- ・江尻 知一 (昭49年卒)
2009年国体出場

ラグビー部

- ・守屋 守武 (昭57年卒)
気仙沼市議選立候補 当選

現役学生の近況

◆主な戦績

空手道部

- ・平成22年度東北地区大学総体
男子団体組手・女子団体組手優勝
- ・宮城県空手道選手権大会
男子団体組手3位

剣道部

- ・東北学生剣道選手権大会において男女とも優勝
男子1位 金澤 快和 (人4年)
3位 遠藤 浩貴 (経2年)
女子1位 菊地 香織 (法2年)
2位 渡部 滢 (営2年)
(他、4名が上位選手として全日本学生剣道選手権大会に出場)

硬式野球部

- ・2009仙台6大学春季リーグ戦3位
- ・2009仙台6大学秋季リーグ戦2位
- ・2009東北地区大学総体2位
- ・2010仙台6大学春季リーグ戦2位

自転車競技部

- ・櫻井 正孝 (営4年)
東日本学生選手権1kmTT・ケイリン優勝
(平21年5月)
全日本大学対抗選手権1kmTT2位・ケイリ

ン3位 (平21年8月)

日韓対抗自転車競技大会1kmTT・ケイリン
4位 (平21年11月)

- ・牧野 翔太 (営2年)
全日本学生選手権ケイリン2位
- ・小野寺圭佑 (経4年)
全日本学生選手権スクラッチ4位

柔道部

- ・全日本学生柔道優勝大会出場 (東北枠4校)
- ・小野 直樹 (営4年)
東北学生柔道体重別選手権大会90kg以下級優勝
- ・阿部 芳行 (経3年)
東北学生柔道体重別選手権大会81kg以下級2位
- ・小林 弘典 (経3年)
東北学生柔道体重別選手権大会100kg超級3位
以上3名が東北代表として全日本学生体重別選手権大会に出場する (このほかに66kg、90kg、100kg超級において3位入賞した。)

準硬式野球部

- ・東北地区大学準硬式野球
春季・秋季リーグ戦優勝 (平21年)
- ・第61回全日本大学準硬式野球選手権大会2回戦
(佐賀県)

- ・東北地区大学準硬式野球
春季リーグ戦優勝（平22年）

水泳部

- ・東北地区大学総体
男女とも優勝、2年連続総合優勝
- ・北部学生選手権大会
男女とも優勝、総合優勝

スキー部

- ・全日本学生選手権大会
男子2部総合14位（24得点）
- ・全日本学生選手権大会
女子3部総合7位（27得点）

軟式野球部

- ・東日本大学軟式野球選手権大会
ベストエイト（平21年）
- ・全日本大学軟式野球選手権大会
東北地区代表決定戦優勝（平22年）

ハンドボール部

- ・春季リーグ2位（平21年）
- ・東日本インカレ出場（平21年）
- ・全日本学生選手権大会出場（平21年）

バスケットボール部

- ・第14回日本男子学生選抜バスケットボール大会
（平22年）東北選抜チーム準優勝（監督・佐々木圭二、選手・本学選手主体）
- ・青山学院定期戦
27年ぶりに勝利

バドミントン部

- ・平成22年東北春季リーグで男女とも優勝。男女、シングル、ダブルスの6種目を制し完全優勝。

ボクシング部

- ・東北地区大学ボクシングトーナメント大会（平21年）
白鳥 雅人（法2年）

バンタム級優勝

- ・東北地区大学ボクシングトーナメント大会（平22年）

三浦 晃司（経2年）

バンタム級2位

早坂 亮祐（教2年）

ライトウエルター級2位

ボート部

- ・全日本軽量級選手権大会
スカル出場
- ・全日本学生選手権大会
スカル出場
- ・全日本ボート選手権大会
スカル出場

ヨット部

- ・東北ヨット選手権大会（平22年）
小林 文恵（地2年）・三浦奈津紀（営2年）
組優勝

ライフル射撃部

- ・春季関東学生選手権大会AR・11位（平21年）
- ・秋季関東学生選手権大会AR・5位（ク）
- ・全日本学生選手権大会AR・11位（ク）
- ・関東学生新人大会AR・8位（ク）
- ・オールミッション大会・4位（ク）

ラグビー部

- ・東北地区大学ラグビーリーグ戦
一部優勝（6年連続12回目）（平21年）
- ・全国大学選手権大会
東北・北海道地区代表決定戦優勝（平21年）
- ・東北地区大学総体
一部優勝（平22年）

新入部員の紹介

空手道部

桂谷 学(東北工大)、高山 春貴(酒田南)、
浅井 太朗(東北学院)、関場 一弘(宮城水産)、
鈴木 奈穂(学法福島)、中川 恵(拓大紅陵)
木村 祥子(石巻女子)

剣道部

岩崎悠二郎(福岡)、星 亮介(仙台)、
高橋 拓夢(小牛田農林)、小澤 啓佑(東稜)、
齋藤 拓也(仙台育英学園)、渥美 翔(仙台)、
森脇 一馬(仙台育英学園)、高橋 脩(佐沼)、
後藤 舞美(柴田)、和田 華林(左沢)、
佐々木 愛(専修大北上)、川村 美喜(名取北)

硬式野球部

塚本 峻太(利府)、遠藤 聖拓(利府)、
高橋 信也(東北)ほか

サッカー部

齋藤 光敬(塩釜FC)、太田 安博(盛岡商業)、
畠中 峻介(ベガルタ)、江川 裕貴(尚志)、
佐々木悠太(盛岡商業)、草薨 翼(秋田商業)、
佐藤 優樹(聖和学園)、狩野 将(利府)、
鈴木 拓磨(聖和学園)、金井 翔太(室蘭大谷)、
高坂 雄真(盛岡商業)、松本 佳浩(尚志)

山岳部

松橋 一誠(八戸商業)

自転車競技部

鈴木 啓祐(学法石川)、柴崎 達也(千葉経済
大附)

柔道部

坂本 大(東北)、吉田 裕輝(田村)、
佐藤 孔明(小牛田農林)、丸岡 義典(光南)、
黒沼 稔(日大山形)、庄子亜久里(学院榴ヶ岡)

準硬式野球部

高橋 誉嗣(利府)、渡辺 尚道(利府)、

大宮 佑太(仙台商業)、高橋 巧(大河原商業)

水泳部

金野 愛(石巻女子商業)、長本 悟(利府)
ほか

スキー部

伊藤 光春(新庄北)、高橋 淑(宮城学院)

ハンドボール部

佐々木啓人(青森山田)、小室 裕樹(富谷)、
伊藤 卓也(塩釜)、伊藤 孝宏(古川工業)

バスケットボール部

- ・男子：菅野 翔太(福島工業)、小山内順平(山
形中央)、佐々木秀人(佐沼)、
笠原 琢(日大山形)
- ・女子：古川 絵梨(福島商業)、大須賀梨奈(福
島・葵)、岸田 麻里(聖和学園)、
三浦 佳(明成)、廣瀬由紀子(福島西)

バドミントン部

宍戸 亮太(宮城県工業)、工藤 隆史(山形南)

ボクシング部

五十嵐光司(南会津)

ライフル射撃部

吉田 信嗣(東北)、荘司みずき(秀光中等教育)、
伊藤 千恵(山形城北)

ラグビー部

石塚 隆(黒沢尻北)、大島 康裕(富良野)、
大塚 聖(St.Brendos College)、小笠原翔(宮
古)、小形谷範央(秋田中央)、佐藤 遼(仙台
工業)、鈴木 荘平(仙台工業)、中田 春輝(宮
古)、野沢 竜甫(八戸西)、藤原 翔(黒沢尻
北)、古川 翔太(松蔭学園福島)

各部期待の選手

空手道部

猪狩 伸彦（2年）今年の東北総体で2年生ながら個人形、個人組手で優勝。

剣道部

- ・男子：遠藤 浩貴、金澤 快和（以上4年）、
吉田 圭佑（3年）、細川 和樹（2年）
- ・女子：渡部 滂、菊地 香織（以上2年）、
後藤 舞美（1年）

硬式野球部

阿部 博文（4年）は今年のドラフト候補、来年は瀬川 喬介（3年）、そして伊藤 祐介（2年）がプロ野球のドラフト候補。

自転車競技部

牧野 翔太（2年）、小野寺圭佑（4年）ともにインカレ上位入賞に期待。

柔道部

- ・阿部 芳行（3年）
インターハイ5位から順調に伸びていて全国を狙わせたい。
- ・小林 弘典（3年）
重量級であるが小技が効いて阿部との二本柱的存在。

準硬式野球部

高谷 弘樹主将・外野手（4年）、山田 貴洋・
投手（4年）、小野寺勇輔・内野手（3年）、
高橋 拳嗣・投手（1年）

水泳部

葛西 早希（3年）、早坂 寿輝（2年）ともにインカレの上位入賞を期待。

スキー部

- ・山尾 祐純（2年）
インカレ3位以内を期待。
- ・秋山 幸太（2年）

インカレ15位以内を期待。

バドミントン部

小関 裕也（2年）、佐藤 若菜（2年）ともに東北3冠を獲得し全国を目指す。

ボクシング部

白鳥 雅人（3年）、三浦 晃司（2年）、
早坂 亮祐（2年）ともに東北大会優勝を。

ボート部

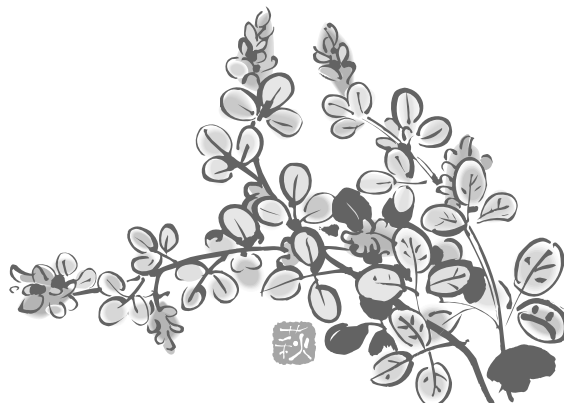
中田 将紀（2年）

ヨット部

小林 文恵（2年）、三浦奈津紀（2年）東北選手権において優勝し、今後の大会でも活躍が期待される。

ライフル射撃部

平井 雅絵（3年）、北山 洋樹（2年）、
古田 信嗣（1年）、莊子みずき（1年）、
伊藤 千恵（1年）



各部OB・OG会から

合気道部

- ・根本仁志師範の七段昇段祝会の開催

本年7月11日にホテルモントレ仙台において、根本仁志合気道部師範の七段昇段祝会が東北合気道連盟、合気会宮城支部、そして道場関係者をはじめ多数の方々の出席により盛大に開催された。

根本師範は「学生時代に合気道部に入部し、多くの仲間と出会ったこと、そして多くの人間性豊かな指導者との出会いで「修行の心構え、基本の大切さ」「和合」の心を学んだ。これからも合気道界、母校、東北学院大学合気道部発展のために恩返しとして邁進してまいりたい」との力強いあいさつがあった。

なお、根本師範は大学を卒業後のアメリカ留学中や帰国してからも合気道の稽古を続け、平成元年に、苦竹に合気道根本道場を開設、現在に至っている。

剣道部

曾根総監督が見事八段に合格、仁昌寺剣道部長から、総監督から師範への要請を受けて伝統の剣道部の師範に就いた。

今後は、曾根師範のもと、新村監督はじめコーチ陣の指導体制が明確になり、剣道部はより一層

強化されることになった。

山岳部

- ・現役部員の活動支援

朝日連峰（21年9月）、南蔵王、中央蔵王縦走（21年11月）、南雁戸山（21年11月）

- ・阿部陽氣氏（昭23年卒）平成21年9月4日逝去された。

自転車競技部

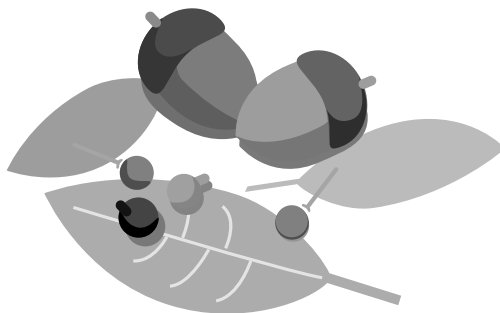
- ・10月に新合宿所に入居予定。

柔道部

高橋輝光元柔道部監督が本年3月25日に逝去された。

高橋輝光氏は東北学院高校から日本大学柔道部に進み、その後、東京スポーツ新聞記者を経て本学職員に採用された。昭和43年から柔道部の監督を15年間務め、その間、東北学連の理事長も歴任した。

本学を定年退職してから、体調を崩し長い入院生活となったが、享年70歳のたく短い生涯であったと言えよう。葬儀には日大柔道部時代の同期生らが駆けつけ、また宮城県柔道連盟長はじめ各役員、そして本学柔道部関係者の多くが参列し冥福



を祈った。

準硬式野球部

- ・佐藤明氏（昭32年卒）平成22年4月逝去された。
- ・阿部清助氏（昭33年卒）平成22年3月逝去された。
- ・河野二男氏（昭37年卒）平成22年6月逝去された。

ハンドボール部

第8回TGジュニアカップ大会を来年（23年）2月5日、6日と東北学院大学泉キャンパス体育館において開催。

ボクシング部

このところの部員不足から戦績も低迷していた

が、OB会を一新し、学生の支援体制を整えてボクシング部の戦力アップに繋がる活動をする事をOB会の最大の目的とした。

ヨット部

部員が少ないという現実にはありますが、その中でも現役に多くのレース経験を積ませるべく、東北エリアだけでなく関東エリアの大会にも出場できるように、関東在住のヨット部OBが動いてくれた。今後、このような活動が定着し、全国レベルを常に自分と比較できるような部になってくれることに期待する。

創部100周年に向けて更なる飛躍を！

＜大正8年創部＞

東北学院大学南六会（OB会）

会長 豊嶋 良一

事務局：980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1 東北学院大学学事課内
Tel.022-264-6461

東北学院大学柔道部後援会

会長 萩生恵治郎

第1回 TG・チーム対抗ゴルフ大会 要項

1. 期 日：平成22年8月8日（日）
2. 主 催：TGスポーツOB連合会
3. 後 援：東北学院同窓会、杜の都ゴルフ倶楽部、東北学院大学ゴルフ部OB会
4. 定 員：120名
5. 会 場：杜の都ゴルフ倶楽部
Tel 022-343-2255 Fax 022-343-2288
黒川郡大和町鶴巣来目大崎字具足沢64-5
(大和I.Cより車で5分、泉I.Cより車で15分)
6. 競技方法：18ホールズ・ストロークプレー（ダブルペリア方式）
スルーザグリーン6インチプレス
団体戦 2名1組ネット合計
使用ティ⇒70歳以上・ゴールドマーク、一般・白マーク、レディース・赤マーク
7. 表 彰：チーム表彰（優勝トロフィ）と個人表彰
8. 参加資格：(1) TGスポーツOB連合会会員
(2) 東北学院卒業生&その家族
(3) 東北学院教職員
(4) 主催者が承認した団体及び個人
9. 参 加 費：3,000円（賞品代&パーティ代）
10. プレー費：10,500円（食事代込み）
70歳以上免税、65歳以上減税（要・証明するもの）
11. 申込方法：2名1組（個人申し込みも可）
申し込み用紙に記入をいただきFaxかe-mailにてご返信ください。
12. 申 込 先：東北学院大学施設課内 TG・チーム対抗ゴルフ大会事務局
Fax 022-264-6345
E-mail jun-sato@staff.tohoku-gakuin.ac.jp
13. 申込〆切：7月20日（火）

■お問合せ先⇒実行委員会 萩生恵治郎 Tel 090-8258-9079
高橋 公晴 Tel 090-3124-0955

○各自スタート時間の30分前までに受付をお済ませください。（※後日、各組のスタート時間をご連絡します。）

○表彰式は15時30分よりクラブハウス内にて行います。

第1回TG・チーム対抗ゴルフ大会の開催

今年の新事業として第1回チーム対抗ゴルフ大会を8月8日、杜の都ゴルフ倶楽部において開催した。炎天下のもとであったが、和気あいあい、好プレーが続出した。

結果は以下のとおり。(ダブルペリア方式)

チーム対抗戦

1位	準硬式野球部・A (澁谷 隆・木皿 茂義)			
	*GROSS 159	*HDCP 13.2	*NET 145.8	
2位	ゴルフ部・B (大友 富雄・田中 一也)			
	*GROSS 145	*HDCP -2.4	*NET 147.4	
3位	仙台同窓会・A (壹岐 和人・橋本 直行)			
	*GROSS 173	*HDCP 25.2	*NET 147.8	
4位	応援団・B (菅原 憲美・福田 友夫)			
	*GROSS 165	*HDCP 15.6	*NET 149.4	
5位	応援団・A (木村 義光・菊地 克紀)			
	*GROSS 170	*HDCP 20.4	*NET 149.6	
6位	ゴルフ部・A (佐藤 貴俊・佐々木孝寿)			
	*GROSS 163	*HDCP 13.2	*NET 149.8	
7位	サッカー部・B (遠藤 睦志・三浦 慶郎)			
	*GROSS 177	*HDCP 26.4	*NET 150.6	
8位	空手道部・B (津田 公逸・阿部広太郎)			
	*GROSS 193	*HDCP 42	*NET 151	
9位	ワングル部 (藤井 治夫・中川 とく)			
	*GROSS 175	*HDCP 24	*NET 151	
10位	空手道部・A (須藤 直照・木村 雄一)			
	*GROSS 186	*HDCP 34.8	*NET 151.2	



ゴルフ大会

個人成績

1位	渋谷 隆 (準硬式野球部)			
	*GROSS 77	*HDCP 6	*NET 71	
2位	菅原 憲美 (応援団)			
	*GROSS 79	*HDCP 7.2	*NET 71.8	
3位	高橋 昌弘 (ゴルフ部後援会)			
	*GROSS 89	*HDCP 16.8	*NET 72.2	
4位	木村 雄一 (空手道部)			
	*GROSS 81	*HDCP 8.4	*NET 72.6	
5位	大友 富雄 (ゴルフ部)			
	*GROSS 73	*HDCP 0	*NET 73	
B G	田中 一也 (ゴルフ部)			
	*GROSS 72			



ゴルフ表彰式

第1回 TG・チーム対抗ゴルフ大会 組合せ表

平成22年8月8日(日)～杜の都ゴルフ倶楽部

OUT

組	スタート時間	氏 名			
1	8:00	佐藤 浩輔	千田 光彦	谷 進	阿部 一雄
		山岳部 (A)	山岳部 (A)	山岳部 (B)	山岳部 (B)
2	8:08	青木 孝行	大江 宏一	高橋 功	阿部 盛樹
		陸上競技部 (A)	陸上競技部 (A)	陸上競技部 (B)	陸上競技部 (B)
3	8:16	若生 清隆	大友 義昭	三浦 慶郎	遠藤 陸志
		サッカー部 (A)	サッカー部 (A)	サッカー部 (B)	サッカー部 (B)
4	8:24	佐々木孝寿	佐藤 貴俊	田中 一也	大友 富雄
		ゴルフ部 (A)	ゴルフ部 (A)	ゴルフ部 (B)	ゴルフ部 (B)
5	8:32	清水 正哉	我妻 孝雄	志小田正一	末永 隆逸
		ラグビー部 (A)	ラグビー部 (A)	ラグビー部 (B)	ラグビー部 (B)
6	8:40	壹岐 和人	橋本 直行	菅原 裕典	佐藤 順
		仙台同窓会 (A)	ゴルフ部 (F)	仙台同窓会 (B)	仙台同窓会 (B)
7	8:48	岩泉 正人	佐々木文彦	桜井和兵衛	
		少林寺拳法部 (A)	少林寺拳法部 (A)	少林寺拳法部 (B)	
8	8:56	星宮 望	小田桐和久	小原 優	工藤 哲男
		同窓会 (A)	同窓会 (A)	同窓会 (B)	同窓会 (B)
9	9:04	沖 光生	竹澤 顕治	久保田 定	菊地 敦
		ゴルフ部 (C)	ゴルフ部 (C)	ゴルフ部 (D)	ゴルフ部 (D)
10	9:12	福岡 智	佐藤 淑秋	菊地 典雄	大平 孝良
		大学生協 (A)	大学生協 (A)	仙台同窓会 (C)	仙台同窓会 (C)
11	9:20	木村 義光	菊地 克紀	福田 友夫	菅原 憲美
		応援団 (A)	応援団 (A)	応援団 (B)	応援団 (B)
12	9:28	佐々原育夫	堀江 喜昭	丹野信一郎	伊藤 昌俊
		硬式野球部 (A)	硬式野球部 (A)	硬式野球部 (B)	硬式野球部 (B)
13	9:36	小野寺浩幸	西木 和徳	佐山 和男	佐藤 環
		硬式野球部 (C)	硬式野球部 (C)	硬式野球部 (D)	硬式野球部 (D)

IN

組	スタート時間	氏 名			
1	8:00	中嶋 一雄	阿部 修	石川 敏明	
		ハンドボール部 (A)	ハンドボール部 (A)	ハンドボール部 (B)	
2	8:08	佐藤今朝善	茂木 昭宏	平山 典明	相馬 博光
		ボクシング部 (A)	ボクシング部 (A)	ボクシング部 (B)	ボクシング部 (B)
3	8:16	下山 正人	後藤 英俊	木皿 茂義	澁谷 隆
		スキューバD部 (A)	スキューバD部 (A)	準硬式野球部 (A)	準硬式野球部 (A)
4	8:24	吉田 勝彦	田中 雄三	坂井 淳	武田 信隆
		弓道部 (A)	弓道部 (A)	弓道部 (B)	弓道部 (B)
5	8:32	湯村 茂治	中川 孝	中川 とく	藤井 治夫
		ワンゲル部 (A)	ワンゲル部 (A)	ワンゲル部 (B)	ワンゲル部 (B)
6	8:40	木村 雄一	須藤 直照	津田 公逸	阿部広太郎
		空手道部 (A)	空手道部 (A)	空手道部 (B)	空手道部 (B)
7	8:48	小野 研治	佐藤 武	熊谷 啓二	菊地 肇
		空手部部 (C)	空手道部 (C)	空手道部 (D)	空手道部 (D)
8	8:56	小助川 進	阿部二三男	嶋 容三	佐藤 克徳
		少林寺拳法部 (C)	少林寺拳法部 (C)	同窓会 (C)	同窓会 (C)
9	9:04	中野 信朗	山崎 成生	渡辺 淳浩	相澤 仁
		スキー部 (A)	スキー部 (A)	同窓会	スキー部 (B)
10	9:12	柴田仁市郎	石丸 静弘	高橋富士男	
		柔道部 (A)	柔道部 (A)	柔道部 (B)	
11	9:20	芦名 文伸	鶴田 善之	高橋 公晴	金子 晃弥
		アメフト部 (A)	アメフト部 (A)	アメフト部 (B)	アメフト部 (B)
12	9:28	松本 信一	佐藤 秀	萩生恵治郎	
		ゴルフ部後援会 (E)	ゴルフ部後援会 (E)	ゴルフ部 (E)	
13	9:36	佐藤 幸一	及川 良則	星 隆治	外川 勝美
		ゴルフ部後援会 (A)	ゴルフ部後援会 (A)	ゴルフ部後援会 (B)	ゴルフ部後援会 (B)
14	9:44	板橋 雄二	高橋 昌弘	早坂 敏勝	石川 弘
		ゴルフ部後援会 (C)	ゴルフ部後援会 (C)	ゴルフ部後援会 (D)	ゴルフ部後援会 (D)

平成22年度 T G スポーツ O B 連合会総会 議事録

1. 日時：平成22年2月17日（水）18：00～19：00

2. 場所：仙台国際ホテル

3. 出席：36部／105名 〈成立〉

合気道部、アメリカンフットボール部、空手道部、弓道部、剣道部、航空部、硬式野球部、ゴルフ部、サッカー部、山岳部、少林寺拳法部、自転車競技部、柔道部、準硬式野球部、水泳部、スキー部、スキューバダイビング部、相撲部、体操競技部、卓球部、軟式野球部、ハンドボール部、バスケットボール部、バドミントン部、バレーボール部、フェンシング部、ボート部、ボクシング部、ボディビル部、ヨット部、ライフル射撃部、ラグビー部、陸上競技部、レスリング部、ワンダーフォーゲル部、応援団。

（欠席～9部：硬式庭球部、サイクリング部、自動車部、スケート部、ソフトテニス部、馬術部、ボウリング部、洋弓部、ラクロス部）

4. 議事の経過及び結果

事務局より総会出席部が現時点で過半数の出席との報告のあと、会則11条に基づき本間良一会長が議長となり議事に入った。

議事録署名人に柔道部OBの遠藤浩氏と少林寺拳法部OBの佐々木文彦氏の2氏を選出した。

【報告事項】

以下の各事項について山田純事務局長から報告された。

(1) 会報「躍動」の発行について

企画広報委員会が中心となり平成21年10月に創刊した。

(2) 創部記念祝賀会の開催

- 1) 柔道部創部90周年記念式典・祝賀会 ～10月3日（土）
- 2) 弓道部創部50周年記念式典・祝賀会 ～11月23日（火）
- 3) 準硬式野球部創部60周年記念式典・祝賀会 ～12月13日（土）

(3) OB会名称の変更について

ウエートトレーニング部OB会から「ボディビル部OB会」に

(4) 新OB会長（参与）について

- 1) ラグビー部 工藤 哲男（昭40経卒）
- 2) バレーボール部 菅野 健（昭42経卒）
- 3) ボディビル部 辻内 学（昭54商卒）（敬称略）

【審議事項】

1号議案 平成21年度事業報告（資料1）

資料をもとに事務局から説明、報告がされた。

〈承認〉

- 2号議案 平成21年度収支決算報告（資料2）
資料をもとに事務局から説明、報告がされた。
監査報告（収支決算書添付）
菅野健監事（バレーボール部OB）から監査結果の報告がされた。〈承認〉
- 3号議案 平成22年度事業計画案（資料3）
資料をもとに事務局から説明された。 〈承認〉
- 4号議案 平成22年度収支予算案（資料4）
資料をもとに事務局から説明された。 〈承認〉
- 5号議案 平成21年度勲功章表彰（資料5）
資料をもとに事務局から説明された。
419号から426号まで8個人を表彰 〈承認〉
- 6号議案 体育会常任幹事会の入会希望
体育会常任幹事会OB・OG会から本会への入会希望文書が提出された。
（平成22年1月27日付文書）
・体育会常任幹事会OB・OG会を平成21年6月6日に設立。
・会長 加藤和史（昭46卒） ・事務局～中道浩司（平13卒）
審議の結果、入会を認めることとした。 〈承認〉
- 7号議案 東北学院創立125周年記念事業募金について
募金期間 平成21年4月1日～平成26年3月3日（5年間）
審議の結果
1) TGスポーツOB連合会として募金に賛同し協力する方向とする。
2) その詳細については常任理事会において審議することとする。
以上を確認した。 〈承認〉

以上により本総会の議事を終了し、本間会長は閉会を宣言した。

以 上

平成21年度 事業報告

〈平成21年1月1日～12月31日〉

年	月	日	曜日	事業名	場所
21	1	30	金	理事会	大学8号館会議室
	2	13	金	平成21年度T GスポーツOB連合会総会&交流会	仙台サンブラザ
				平成20年度勲功章授与式(第410号～第418号)	
	5	29	金	常任理事会(第1回)	大学8号館会議室
	6	16	火	企画広報委員会	大学8号館会議室
	10	3	土	柔道部創部90周年記念式典・祝賀会	仙台サンブラザ
	11	11	水	企画広報委員会	大学8号館会議室
	11	22	日	弓道部創部50周年記念式典・祝賀会	仙台サンブラザ
	11	25	水	常任理事会(第2回)	大学8号館会議室
11	28	土	準硬式野球部創部60周年記念式典・祝賀会	○△□	

平成22年度 事業計画

〈平成22年1月1日～12月31日〉

年	月	日	曜日	事業名	場所
22	1	20	水	理事会	大学8号館会議室
	2	17	水	平成22年度T GスポーツOB連合会総会&交流会	仙台国際ホテル
				平成21年度勲功章授与式(第419号～第426号)	
	5	10	月	常任理事会	大学8号館会議室
	6	15	火	常任理事会	大学8号館会議室
	7	21	水	理事会	大学8号館会議室
	8	8	日	第1回・T Gチーム対抗ゴルフ大会	杜の都ゴルフ倶楽部
	10	15	金	常任理事会	大学8号館会議室
	10	1	金	会報「躍動」第2号発行	
	11	下旬		常任理事会	大学8号館会議室
	12	月上旬		理事会	大学8号館会議室
				(※各専門委員会(総務・財政・企画広報)は随時開催する。)	

参考～東北学院同窓会&仙台同窓会主催事業

年	月	日	曜日	事業名	場所
22	5	15	土	東北学院同窓会総会(東北学院同窓会主催)	仙台国際ホテル
	毎月	15		T G十五日会()	仙台国際ホテル
	7	23	金	第31回T G交流ビアパーティ(仙台同窓会主催)	仙台国際ホテル
	10	26	火	第23回T G交流ゴルフ大会()	仙台カントリー倶楽部

平成21年度 収支決算書

〈平成21年1月1日から平成21年12月31日〉

〈収入〉

(円)

摘 要	21年度 予算	21年度 決算	増 減	備 考
繰 越 金	895,715	895,715	0	
総 会 費	700,000	440,000	△ 260,000	会員88名 (@5,000円)
年 会 費	225,000	210,000	△ 15,000	42部 (@5,000円)
会 報 廣 告 協 賛 費	0	115,000	115,000	会報「躍動」への広告協賛
預 金 利 息	2,500	632	△ 1,868	
雑 収 入	0	90,000	90,000	東北学院同窓会からの祝儀
合 計	1,823,215	1,751,347	△ 71,868	

〈支出〉

摘 要	21年度 予算	21年度 決算	増 減	備 考
総 会 費	600,000	434,357	△ 165,643	仙台サンプラザ
表 彰 費	100,000	105,000	5,000	勲功賞盾、額縁等
印 刷 費	0	168,000	168,000	会報「躍動」印刷費
事 業 費	300,000	88,200	△ 211,800	会旗制作費
通 信 費	25,000	41,590	16,590	各案内郵送料、ハガキ代
会 議 費	30,000	30,970	970	常任理事会、理事会、専門委員会
事 務 費	20,000	39,869	19,869	封筒、ネームプレート等
委 託 費	50,000	50,000	0	ホームページ更新手続料
慶 弔 費	20,000	1,344	△ 18,656	
雑 費	50,000	40,840	△ 9,160	各部祝賀会ご祝儀、振込手数料
小 計	1,195,000	1,000,170	△ 194,830	
繰 越 金	0	751,177	751,177	
予 備 費	628,215	0	△ 628,215	
合 計	1,823,215	1,751,347	△ 71,868	

平成22年度 収支予算

〈平成22年1月1日から平成22年12月31日〉

〈収入〉

(円)

摘 要	21年度 決算	22年度 予算	増 減	備 考
繰 越 金	895,715	751,177	△ 144,538	前年度からの繰越金
総 会 費	440,000	720,000	280,000	6,000円×120名
年 会 費	210,000	225,000	15,000	5,000円×45部
会 報 廣 告 協 賛 費	115,000	150,000	35,000	
預 金 利 息	632	1,000	368	
雑 収 入	90,000	0	△ 90,000	
合 計	1,751,347	1,847,177	95,830	

〈支出〉

摘 要	21年度 決算	22年度 予算	増 減	備 考
総 会 費	434,357	720,000	285,643	仙台国際ホテル
表 彰 費	105,000	100,000	△ 5,000	勲功賞盾、額縁等
印 刷 費	168,000	170,000	2,000	会報「躍動」印刷費
事 業 費	88,200	130,000	41,800	
通 信 費	41,590	50,000	8,410	各案内郵送料、返信ハガキ代
会 議 費	30,970	40,000	9,030	常任理事会、理事会、専門委員会
事 務 費	39,869	40,000	131	
委 託 費	50,000	50,000	0	ホームページ更新手続料
慶 弔 費	1,344	20,000	18,656	
雑 費	40,840	50,000	9,160	各部祝賀会ご祝儀等
小 計	1,000,170	1,370,000	369,830	
繰 越 金	751,177	0	△ 751,177	
予 備 費	0	477,177	477,177	
合 計	1,751,347	1,847,177	95,830	

平成22年度T GスポーツOB連合会交流会

*平成22年2月17日(水) 19:00
*仙台国際ホテル
*進行・石田伸彦(事務局・水泳部)

■勲功章贈呈式(第419号～第426号)

- 419号 櫻井 正孝～経済学部4年
第64回国体成年自転車ケイリン競技優勝
- 420号 石川 達也～経済学部3年
第5回日台大学軟式野球親善国際大会日本代表
- 421号 大沼 誠尚～法学部1年
第43回少林寺拳法全日本学生大会組演武段外の部第2位(優秀賞)
- 422号 匹田 元～文学部1年
第43回少林寺拳法全日本学生大会組演武段外の部第2位(優秀賞)
- 423号 高橋 順一～昭和34年文経済学部卒・ヨット部OB
平成21年春の叙勲・旭日双光章受章
- 424号 菊地 正～昭和46年経済学部卒・バドミントン部OB
第26回シニアバドミントン選手権大会60歳以上シングルス第2位
- 425号 高坂 雄介～平成14年卒・剣道部OB
第57回全日本剣道選手権大会第3位
- 426号 田畑 大地～平成20年経済学部卒・柔道部OB
第16回環太平洋シニア柔道選手権大会66kg以下級第3位

■交流会

- 主催挨拶 本間 良一 T GスポーツOB連合会会長
祝 辞 平河内健治 学校法人東北学院理事長
星宮 望 東北学院院長・大学長・同窓会長
乾 杯 柴田 良孝 東北学院大学副学長
来賓紹介 東北学院役職者
スピーチ 小幡 忠義 東北・宮城県サッカー協会会長
各部報告 柔道部創部90周年 遠藤 浩 OB会副会長
弓道部創部50周年 熊谷 聖 OB会会長
準硬式野球部創部60周年 天江 皓一 OB会会長
校歌斉唱 応援団員
閉会挨拶 森 俊博 T GスポーツOB連合会副会長



平成22年度総会 本間会長あいさつ



勲功賞授与



総会 ご来賓の方々

T G スポーツ O B 連 合 会 会 則

(名称・組織)

第1条 本会は、T G スポーツ O B 連 合 会 と 称 し、東 北 学 院 大 学 体 育 会 各 部 O B、並 び に 応 援 団 O B、及 び 理 事 会 で 推 薦 し た 者 を 以 っ て 組 織 す る。

(目的)

第2条 本会は東北学院スポーツの振興と発展のため、物心両面の援助を図るとともに、会員相互の融和と団結を図り母校の隆盛に寄与することを以って目的とする。

(事務局)

第3条 本会の事務局を東北学院大学内に置く。

(事業)

第4条 本会は第2条の目的を達成するため、次の事業を行なう。

1. 優秀団体、優秀選手の表彰
2. 指導者講習会
3. 体育会所属学生への指導、援助
4. 会員名簿の管理
5. 交流会
6. その他、会の運営に必要な事業

(会員)

第5条 本会の会員を下記二種に区分する。

1. 正会員
2. 特別会員

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く。

1. 会 長 1名
2. 副 会 長 3名
3. 理 事 長 1名
4. 常 任 理 事 15名
5. 理 事 各 部 よ り 2 名、並 び に 会 長 委 嘱 の 者 若 干 名
6. 事 務 局 長 1 名
7. 監 事 2 名
8. 顧 問 若 干 名
9. 名 誉 会 長、相 談 役、参 与 を 置 く こ と が で き る。

(選任)

第7条 役員を選任は次による。

1. 会長並びに理事長は理事会において推薦され総会で承認を得る。
2. 副会長は会長が指名する。
3. 理事は各部OB会から選出された者と会長委嘱の者とし、理事会を構成する。理事会は理事長、常任理事をそれぞれ推薦、選出し、総会の承認を得る。
4. 事務局長は理事会において選出する。
5. 監事は総会において会員の中から選出する。
6. 顧問は各OB会等から推薦された者、及び本会の発展に特に功労があった者を会長が委嘱する。
7. 名誉会長、相談役、及び参与は会長が委嘱し、総会で承認を得る。

(役員の仕事)

- 第8条
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
 2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故ある時はこれを代行する。
 3. 理事長は事業の実務の執行を指示し管理する。

4. 常任理事、及び理事は具体的な実務の執行を行なう。
5. 事務局長は本会の円滑な運営のため事務全般を担当する。
6. 監事は定時総会において監査の結果を報告する。
7. 顧問は重要事項につき会長の諮問に応じる。

(任期)

第9条 役員任期は2ケ年とする。但し再任を妨げない。

(会議)

第10条 本会に次の会を置く。

1. 総会
2. 常任理事会
3. 理事会
4. 専門委員会

第11条 総会は年一回開催し、会長がこれを招集し議長となる。臨時総会は必要ある時に、会長がこれを招集する。

第12条 総会は本会の最高の意思決定事項とし、次の事項を決議する。

1. 事業報告及び収支決算
2. 事業計画及び収支予算
3. その他重要な事項

第13条 常任理事会、理事会及び専門委員会は理事長が必要に応じて召集する。

第14条 総会、常任理事会、理事会の議事は、出席者の過半数を以って決定し、可否同数の場合は会長の決するところによる。

(会計)

第15条 本会の会費は、体育会各部OB会、並びに応援団OB会より年会費を徴収する。その他、助成金、寄付金を以って会の運営費に充てる。

第16条 本会の会計については、事務局で管理する。

第17条 本会の事業、会計年度は1月1日に始まり同年12月31日に終わるものとする。

付 則

1. 会則

本会則は昭和48年（1973）11月22日から施行する（会名称は春秋会）

平成2年（1990）2月6日、会則の一部改正（総会）

平成6年（1994）10月28日、会則一部改正（臨時総会）

会名称変更。春秋会からT GスポーツOB連合会に

平成14年（2002）2月12日、会則の一部改正（総会）

副会長枠数、役員選任方法の一部改正

平成18年（2006）2月16日、会則の一部改正（総会）

幹事名称を理事名称に変更。専門委員会の設置、会計年度の変更

平成19年（2007）2月15日、会則の一部改正（総会）

終身会費の廃止

平成20年（2008）2月14日、会則の一部改正（総会）

第2条、スポーツ推薦等と、の文言を削除

2. 年会費は別に定める。
3. 表彰規定は別に定める。
4. 専門委員会規定は別に定める。
5. 慶弔規程は別に定める。

T G スポーツ O B 連合会 役員 〈平成22年度〉

顧問 平河内健治 東北学院理事長
星宮 望 東北学院長・大学長

相談役 辻 秀人 学生部長 (文学部) 工藤 哲男 元本会副会長 (2代監督会長)
原田 善教 体育会会長 (経済学部) 佐藤 正 前本会副会長 (3代監督会長)
刈刈アール・ロング 体育会副会長 (文学部) 伊藤 哲夫 前本会副会長
仁昌寺正一 体育会副会長 (経済学部) 高橋 嘉男 元本会事務局長
井上 普就 体育会副会長 (経営学部) 石井 勝雄 学生課長
澤野 和博 体育会副会長 (法学部) 海老田保夫 校友課長
佐々木桂二 体育会副会長 (教養学部)

参 与 加盟団体各OB会会長

役 職	氏 名	卒年・学科	所 属 部	備 考
名誉会長	江馬 成夫	S25専経	山岳部	前本会会長
会 長	本間 良一	S33文経	サッカー部	宮城県サッカー協会
副 会 長 (3名)	仲嶋 一雄	S41文経	ハンドボール部	ハンドボール部OB会長 (OB会長枠)
	森 俊博	S48経商	空手道部	モリプレゼンス(株) (会長指名枠)
	栗野 眞	S52経経	ライフル射撃部	監督会長 (監督会長枠)
理 事 長	高橋富士男	S45法法	柔道部	柔道部師範、副部長
常任理事 (15名)	鈴木 浩	S37文経	陸上競技部	陸上競技部OB会長
	熊谷 聖	S41文経	弓道部	弓道部OB会長
	増田 量吉	S42文経	ボート部	ボート部監督、監督会副会長
	小野 潔	S43経商	ボクシング部	ボクシング部OB会長
	佐藤 順	S45経商	サッカー部	サッカー部総監督
	藤井 治夫	S45経商	ワンダーフォーゲル部	ワンダーフォーゲル部OB会幹事
	武田三子雄	S47経経	剣道部	剣道部副部長
	伊藤 恵一	S48経商	ソフトテニス部	ソフトテニス部OB会幹事長
	伏見 善成	S50経商	準硬式野球部	準硬式野球部監督、監督会副会長
	中野 信朗	S50経経	スキー部	スキー部副部長 (※事務局兼務)
	石山 仁	S50経経	バスケットボール部	バスケットボール部男子監督
	千葉 幹雄	S53経経	自転車競技部	自転車競技部OB会副会長
	伊藤 昌俊	S53経経	硬式野球部	硬式野球部OB会幹事長
大友 富雄	S55経経	ゴルフ部	ゴルフ部監督	
山内 茂夫	S57経経	バレーボール部	バレーボール部副部長	
理 事	加盟団体より各2名			
監 事	高橋 正博	S40文経	合気道部	合気道部監督
	菅野 健	S42文経	バレーボール部	バレーボール部顧問
事務局長	山田 純	H06経商	ラグビー部	ラグビー部副部長
事 務 局	石田 伸彦	H06教人	水泳部	水泳部副部長
	尾形 依子	H08経経	ヨット部	ヨット部コーチ

〈事務局〉 〒980-8511 青葉区土樋1-3-1 東北学院大学学生課内 TEL 022-264-6474

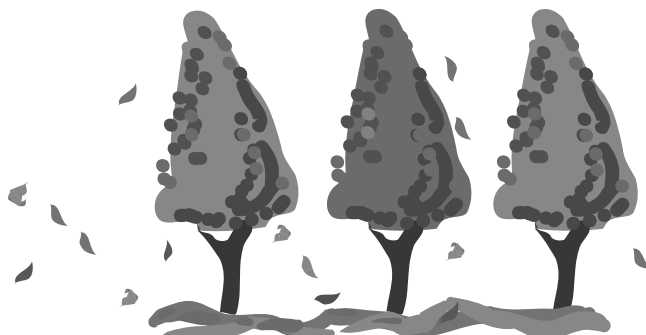
平成22(2009)年度 T G スポーツ O B 連合会 専門委員会

委員会	委員	卒年	所属	審議(検討)内容
総務	*中野 信朗	S50経経	スキー部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勲功章受賞者の選考 ・ 会則、内規等の検討 ・ 大学等関係部署との連携 ・ 会員名簿の整理
	小野 潔	S43経商	ボクシング部	
	伊藤 恵一	S48経商	ソフトテニス部	
	伏見 善成	S50経経	準硬式野球部	
	伊藤 昌俊	S53経経	硬式野球部	
財務	*熊谷 聖	S41文経	弓道部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財源安定策の検討 ・ 年会費の納入確認 ・ 収支決算書の作成 ・ 収支予算案の作成
	増田 量吉	S42文経	ボート部	
	藤井 治夫	S45経商	ワンダーフォーゲル部	
	武田三子雄	S47経経	剣道部	
	千葉 幹夫	S53経経	自転車競技部	
企画広報	*鈴木 浩	S37文経	陸上競技部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員参画拡大策の検討 ・ H P の管理・更新 ・ 各企画の立案・実施 ・ 機関紙の発行 ・ 大学スポーツ新聞部との連携 ・ 報道関係との連携・情報交換 ・ シンボルマーク、グッズ等の検討
	佐藤 順	S45経商	サッカー部	
	石山 仁	S50経経	バスケットボール部	
	大友 富雄	S55経経	ゴルフ部	
	山内 茂夫	S57経経	バレーボール部	

(*～委員長)

理事長	高橋富士男	S45法法	柔道部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 常任理事会、総会、参与会等の開催案内 ・ 議事録の作成 ・ 専門委員会の記録、保存 ・ 本会の運営に必要な事務全般
事務局	*山田 純	H06経商	ラグビー部	
	石田 伸彦	H06教人	水泳部	
	尾形 依子	H08経経	ヨット部	

(*～事務局長)



T G スポーツ O B 連合会 各団体役員名

(平成22年度)

No	部 名	O B 会長(参与)	理 事 (各団体 2 名)		連絡者
1	合気道部	根本 仁志	高橋 正博	岡 正記	高橋 正博
2	アメリカンフットボール部	佐々木英明	曾根 邦敏	高橋 公晴	高橋 公晴
3	空手道部	小野 研治	須藤 直照	高橋 光夫	高橋 光夫
4	弓道部	熊谷 聖	熊谷 聖	平間 真	熊谷 聖
5	剣道部	斎藤東志男	武田三子雄		武田三子雄
6	航空部	斎藤 邦雄	鳩岡 協一	川村 頼宗	斎藤 邦雄
7	硬式庭球部				亀山 政博
8	硬式野球部	佐々原育夫	岩渕 靖夫	伊藤 昌俊	伊藤 昌俊
9	ゴルフ部	小田桐和久	大友 富雄	萩生恵治郎	萩生恵治郎
10	サイクリング部				三浦 宗昭
11	サッカー部	松谷 一夫	佐藤 順	鈴木 義夫	佐藤 順
12	山岳部	松倉 和義	高橋 伸彦	佐藤 浩輔	松倉 和義
13	少林寺拳法部	本間 盛男	二階堂 哲	大槻 善則	門脇 邦知
14	自転車競技部	小野目博昭	小野目博昭	千葉 幹雄	伊里山 豊
15	自動車部	山田 敏郎	佐藤 正	石井 幸雄	石井 幸雄
16	柔道部	豊嶋 良一	高橋富士男	佐藤 勇三	佐藤 勇三
17	準硬式野球部	天江 皓一	伏見 善成	八島 康治	伏見 善成
18	水泳部	桐ヶ窪多門	石田 伸彦	井手上 喬	石田 伸彦
19	スキー部	新関 守	中野 信朗	松本 宏一	松本 宏一
20	スキューバダイビング部	武田 幸雄	武田 幸雄	下山 正人	下山 正人
21	スケート部	山内 浩	山下 良夫	川崎大一郎	真壁 康弘
22	相撲部	菊地 正博	海老田富夫	斎藤 恵	嶺岸 新平
23	ソフトテニス	佐藤 脩	伊藤 恵一	猪股 正芳	伊藤 恵一
24	体操競技部	斎藤 英夫	渡辺 良一	須田 充彦	渡辺 良一
25	卓球部	樋口 光成	増田 孝夫	村松 範明	増田 孝夫
26	軟式野球部	菅野 昭彦	福田 克俊	鈴木 勝博	福田 克俊
27	ハンドボール部	仲嶋 一雄	阿部 修	小西 和男	仲嶋 一雄
28	馬術部		渡辺 勉	梅 泰彦	渡辺 勉
29	バスケットボール部	菊池 哲	石山 仁	帆足 直治	石山 仁
30	バドミントン部	浜畑 莞爾	川内 賢一	菊地 正	菊地 正
31	バレーボール部	菅野 健	高橋 純夫	山内 茂夫	山内 茂夫
32	フェンシング部	佐藤 彰一	工藤 健二	頼藤 俊夫	工藤 健二
33	ボウリング部	芳賀 正良	館崎 智信		館崎 智信
34	ボート部	鈴木 和雄	増田 量吉	角張 正	角張 正
35	ボクシング部	小野 潔	小野 潔	遠藤 博志	小野 潔
36	ボディビル部	辻内 学	高橋 純	大友 正敏	町井 核哉
37	洋弓部		森山 一輝		森山 一輝
38	ヨット部	松澤 泰通	大久保寿人	山田幸太郎	木村 公英
39	ライフル射撃部	三文字一郎	栗野 眞	佐久間栄造	栗野 眞
40	ラクロス部		佐藤 和香		佐藤 和香
41	ラクビー部	工藤 哲男	高橋 俊哉	志小田正一	山田 純
42	陸上競技部	鈴木 浩	鈴木 浩	金ヶ崎伸也	鈴木 浩
43	レスリング部	菅野 紀夫	佐々木幸蔵	早坂 友行	早坂 友行
44	ワンダーフォーゲル部	勝又 清明	藤井 治夫	松尾 尚志	勝又 清明
45	応援団	山城 正温	高橋 嘉男	海老田保夫	高橋 嘉男
46	体育会常任幹事会	加藤 和史	須田 充彦	中道 浩司	中道 浩司

編 集 後 記

第2号を当初の予定より遅れてしまったが、多くのOB会の会長さんはじめ会員各位のご理解とご協力によって発行することができた。

発行の遅れを今年の猛暑にするつもりはないが、それにしても暑い夏であった。因みに気象庁の発表では1898年以降の113年間のデータを比較したら今年が一番暑かった、ということである。

夏の暑さ以外にも新聞、TV等での報道で関係者の苦勞がしのばれることが多かったように思う。

今年3月に宮崎県において口蹄疫が発生し大きな被害を及ぼしたし、5月に入ると大相撲界における野球賭博問題が某週刊誌のスクープとして報じられ、それ以外にも、参院選選挙や民主党総裁選、そして中国との軋轢など、国内外に大きな問題を孕む毎日の報道である。

そんな中で、東北学院中高校の跡地に仙台トラストタワーが完成した。34階、180mの威容から周りの町並みが一変したように感じられる。そして、学院時報にも報じられているが、そこに学院中高校の記念碑が建てられ、そして学院の発祥の地とした記念碑が南町通り沿いにある仙建工業の敷地内に建てられるという。

さて、我がTGスポーツOB連合会も会員の目がTGスポーツに向いてくれるようないろいろの企画を模索している。会報をHPに公開することや、キャラクターを製作しての広報策も一案で

あるが、このご時世にパッと心が明るくなるような斬新なアイデアのご提供に期待をしたい。

書店、文具屋さんにはすでに来年の手帳が陳列されている。今年の冬は厳冬との予報でもある。各位のますますのご活躍に期待をして第2号の結としたい。

<企画広報委員会>

事務局：〒980-8511仙台市青葉区土樋1-3-1
東北学院大学学生課内 Tel.022-264-6474



TGスポーツOB連合会